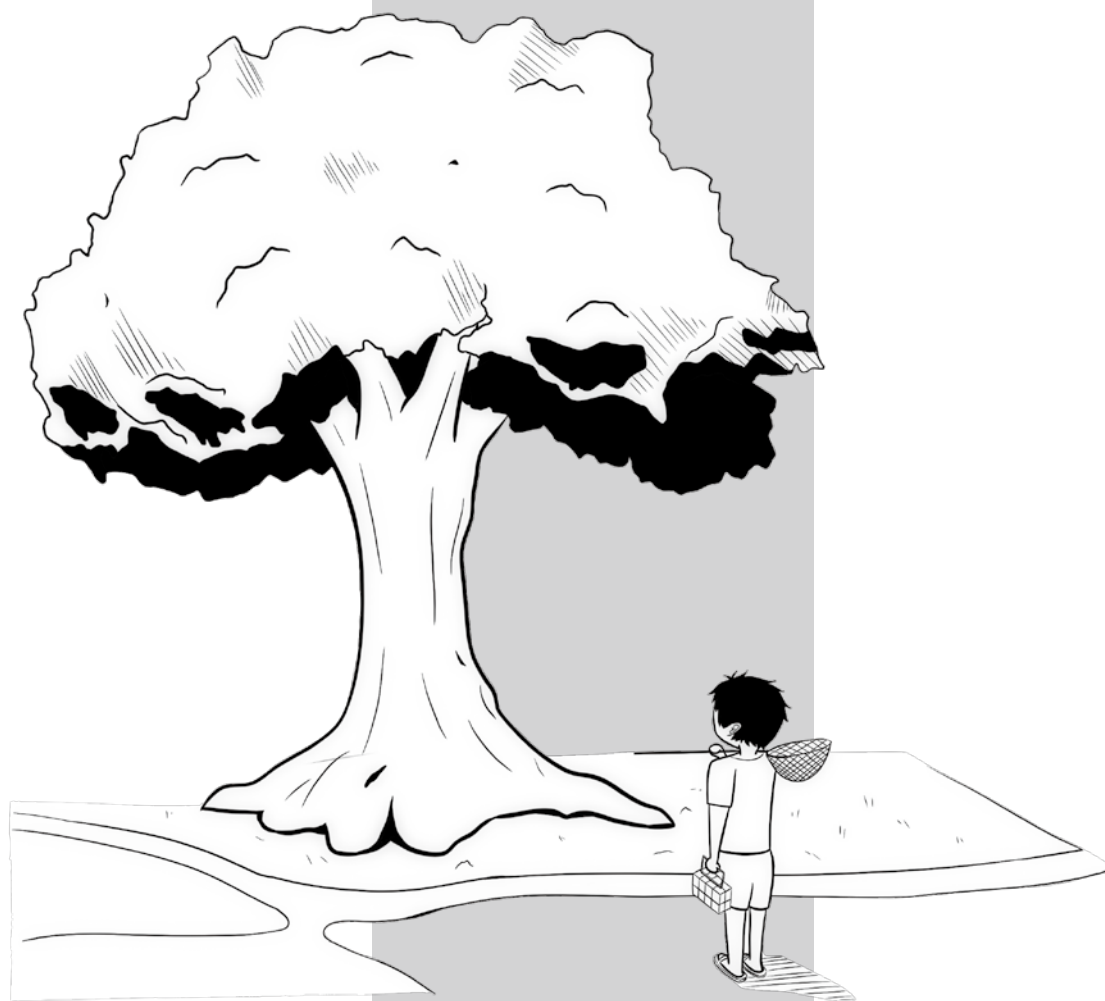


# T-file

2024 資料集



東京都市大学付属中学校・高等学校  
TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

## 目 次

1. 中学一般入試結果概要（3年間比較）	1
2. 第1回 2月1日午前 入試結果	2
3. 第2回 2月1日午後 入試結果	2
4. 第3回 2月3日午前 入試結果	3
5. 第4回 2月5日午前 入試結果	3
6. 帰国生入試結果概要（3年間比較） 入試結果・アンケート結果	4
7. グローバル入試 2月3日 入試結果	7
8. 2024年度入試 主要模試結果偏差値（80%）	8
9. 第2回入試（2月1日午後）受験生の午前の受験校	9
10. 入学者の第1志望校・併願校（新入生保護者のアンケートより）	9
11. 受験志望の動機など（新入生保護者のアンケートより）	10
12. 2023年度 通学地域集計表	11
13. 校納金等一覧（2024年度）	12
14. 2024年度 中学校使用教科書・副教材一覧	13
15. 夏期・冬期・春期講習 開講講座（学年別）	14
16. 高2 駿台模試 結果 2024年2月実施	15
17. 中学生検定取得率	15
18. 2023年度 クラブ所属部員数（中学・高校）	16
19. 2023年度 クラブ活動・教科活動主要実績一覧	17
20. 2024年度 大学合格実績一覧	18
21. 2023年度 指定校推薦主要大学	19
22. 2024年度 学校説明会・行事日程	20
23. 2024年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度	21

# 1. 中学一般入試結果概要 (3年間比較)

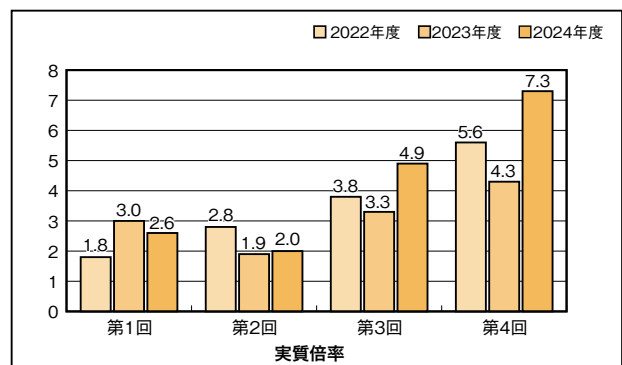
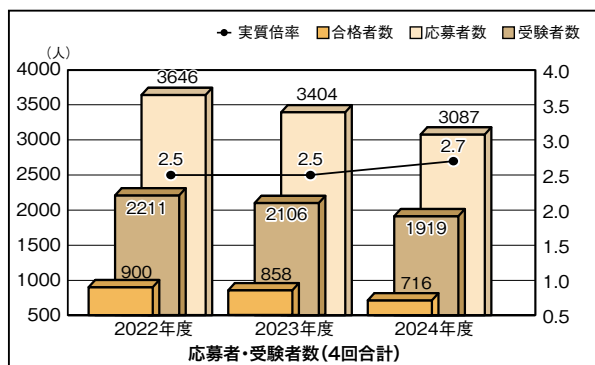
## Point!

### 14年連続 都内男子校志願者 No.1

「2月1日午前入試」に参入して2年目となりました。入試日程や募集定員などの募集要項の大きな変更は行いませんでしたが、入学手続締切日の前倒しの影響などもあり、志願者数・受験者数とも前年を下回りましたが、14年連続都内男子校志願者数は1位となりました。一般入試4回の合計では、志望者数3,087名、受験者数1,919名、合格者数716名、実質倍率2.7倍となりました。

年度	日	程	2月1日午前			2月1日午後			2月3日			2月5日			合計					
			Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計			
2024年度	定員(Ⅱ類・Ⅰ類合計)		50			100			60			30			240					
	志望	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計				
	応募者数	107	174	281	695	492	1187	311	382	693	480	446	926	1593	1494	3087				
	受験者数	59	123	182	635	427	1062	117	214	331	144	200	344	955	964	1919				
	受験率	64.8%			89.5%			47.8%			37.1%			62.2%						
	正規合格者数	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計				
		8	27	35 *(6)	70	172	211	148 *(45)	531	13	23	32 *(10)	68	13	19	15 *(4)	47	206	280	230 *(65)
	実質倍率	1.7倍	3.5倍	2.6倍	1.7倍	2.9倍	2.0倍	3.3倍	6.7倍	4.9倍	4.5倍	13.3倍	7.3倍	2.0倍	4.2倍	2.7倍				
	入学者数	73			70			35			35			213						
	合格最低点(得点率)	Ⅱ類	257 (73.4%)		132 (66.0%)		241 (68.9%)		263 (75.1%)											
I類		215 (61.4%)		115 (57.5%)		225 (64.3%)		251 (71.7%)												
2023年度	日	程	2月1日午前			2月1日午後			2月3日			2月5日			合計					
	定員(Ⅱ類・Ⅰ類合計)		50			100			60			30			240					
	志望	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計				
	応募者数	138	200	338	707	578	1285	355	413	768	529	484	1013	1729	1675	3404				
	受験者数	93	149	242	612	501	1113	133	227	360	175	216	391	1013	1093	2106				
	受験率	71.6%			86.6%			46.9%			39%			61.9%						
	正規合格者数	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計				
		8	28	45 *(4)	81	157	223	197 *(69)	577	19	41	48 *(11)	108	32	38	22 *(6)	92	216	330	312 *(90)
	実質倍率	2.6倍	3.3倍	3.0倍	1.6倍	2.5倍	1.9倍	2.2倍	4.7倍	3.3倍	2.5倍	9.8倍	4.3倍	1.9倍	3.5倍	2.5倍				
	入学者数	55			85			47			53			240						
合格最低点(得点率)	Ⅱ類	249 (71.1%)		137 (68.5%)		230 (65.7%)		245 (70.0%)												
	I類	210 (60.0%)		117 (58.5%)		207 (59.1%)		229 (65.4%)												
2022年度	日	程	2月1日			2月2日			2月4日			2月6日			合計					
	定員(Ⅱ類・Ⅰ類合計)		120			60			30			30			240					
	志望	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計				
	応募者数	701	541	1242	311	297	608	401	379	780	506	510	1016	1919	1727	3646				
	受験者数	634	485	1119	165	162	327	147	178	325	172	268	440	1118	1093	2211				
	受験率	90.1%			53.8%			41.7%			43.3%			60.6%						
	正規合格者数	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計	Ⅱ類	I類	計				
		187	233	201 *(67)	621	28	50	38 *(9)	116	22	29	34 *(6)	85	18	32	28 *(3)	78	255	344	301 *(85)
	実質倍率	1.5倍	2.4倍	1.8倍	2.1倍	4.3倍	2.8倍	2.9倍	5.2倍	3.8倍	3.4倍	9.6倍	5.6倍	1.9倍	3.6倍	2.5倍				
	入学者数	83			38			43			50			214						
合格最低点(得点率)	Ⅱ類	2科143・4科213(71.0%)		240 (68.6%)		221 (63.1%)		237 (67.7%)												
	I類	2科123・4科180(60.0%)		218 (62.3%)		201 (57.4%)		220 (62.9%)												

\*正規合格者数の( )内の数字はI類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。  
\*入学者数には繰り上げ合格による入学者を含みます。



(注) 2022年度入試は試験日程が異なりますので、ご注意ください。

## 2. 第1回 2月1日午前 (8時30分集合 8時40分試験開始 12時25分試験終了 インターネット発表21時～)

### 1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
	Ⅱ類	107	Ⅱ類	59	Ⅱ類	55.1%	Ⅱ類	Ⅱ類：8 (Ⅰ類：27)	Ⅱ類	1.7倍	Ⅱ類	8
約50	Ⅰ類	174	Ⅰ類	123	Ⅰ類	70.7%	Ⅰ類	Ⅰ類：35 (6)	Ⅰ類	3.5倍	Ⅰ類	40
	計	281	計	182	計	64.8%	計	70	計	2.6倍	計	48

\*正規合格者数Ⅰ類の( )内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

### 2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

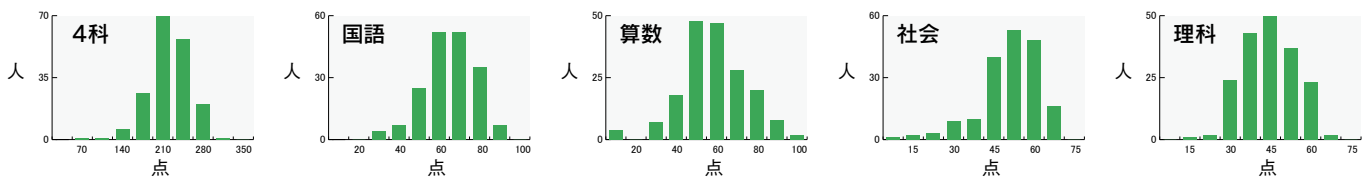
		4科	国語	算数	社会	理科	
試験時間(分)			50	50	40	40	
配点		350	100	100	75	75	
平均点	受験生	Ⅱ類	219.5	66.4	59.7	49.4	44.0
		Ⅰ類	196.1	58.3	51.3	47.0	39.6
	合格者	Ⅱ類	268.8	75.1	80.1	60.5	53.0
		Ⅰ類	230.6	67.8	63.5	52.0	47.2
合格者最高点		Ⅱ類	293	89	95	66	65
		Ⅰ類	254	89	82	62	63
合格者最低点		Ⅱ類	257				
		Ⅰ類	215				

### Point!

#### 実質倍率はやや低下

2月1日午前入試に参入して、2年目の入試となりました。応募者数は281名(昨年338名)、受験者数は182名(昨年242名)、受験率は64.8%(71.6%)と昨年よりも下回りました。合格者数を70名(昨年81名)としたため、実質倍率は2.6倍(昨年3.0倍)となり、こちらも低下しました。

### 3. 教科別得点分布



## 3. 第2回 2月1日午後 (15時10分集合 15時20分試験開始 17時15分試験終了 インターネット発表23時～) (16時集合 16時10分試験開始 18時5分試験終了)

### 1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
	Ⅱ類	695	Ⅱ類	635	Ⅱ類	91.4%	Ⅱ類	Ⅱ類：172 (Ⅰ類：211)	Ⅱ類	1.7倍	Ⅱ類	10
約100	Ⅰ類	492	Ⅰ類	427	Ⅰ類	86.8%	Ⅰ類	Ⅰ類：148 (45)	Ⅰ類	2.9倍	Ⅰ類	47
	計	1187	計	1062	計	89.5%	計	531	計	2.0倍	計	57

\*正規合格者数Ⅰ類の( )内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

### 2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

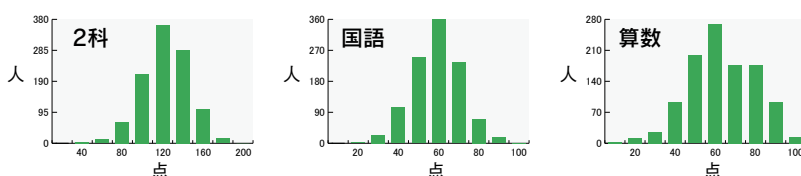
		2科	国語	算数	
試験時間(分)			50	50	
配点		200	100	100	
平均点	受験生	Ⅱ類	118.7	56.4	62.3
		Ⅰ類	104.9	51.7	53.1
	合格者	Ⅱ類	144.1	66.2	77.9
		Ⅰ類	57.9	64.6	123.0
合格者最高点		Ⅱ類	180	92	100
		Ⅰ類	131	82	89
合格者最低点		Ⅱ類	132		
		Ⅰ類	115		

### Point!

#### 今年も受験生は1000名を超える

今年も受験生は1000名を超え、2/1午後入試では都内の男子中で最多となりました。同日午前の併願校は昨年とほぼ同じで、都内の男子進学校が上位を占めました。実質倍率は例年と比べて0.1ポイント高い2.0倍となり、2/1午後入試としては例年に比べ高く、受験生にとってはやや厳しい入試となったと思われます。

### 3. 教科別得点分布



## 4. 第3回 2月3日 (8時30分集合 8時40分試験開始 12時25分試験終了 インターネット発表18時～)

### 1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
約60	Ⅱ類	311	Ⅱ類	117	Ⅱ類	37.6%	Ⅱ類	Ⅱ類：13(Ⅰ類：23)	Ⅱ類	3.3倍	Ⅱ類	5
	Ⅰ類	382	Ⅰ類	214	Ⅰ類	56.0%	Ⅰ類	Ⅰ類：32(10)	Ⅰ類	6.7倍	Ⅰ類	16
	計	693	計	331	計	47.8%	計	68	計	4.9倍	計	21

\*正規合格者数Ⅰ類の( )内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

### 2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

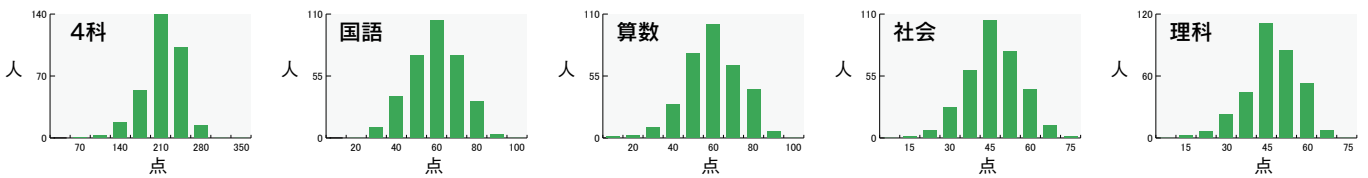
		4科	国語	算数	社会	理科	
試験時間(分)			50	50	40	40	
配点		350	100	100	75	75	
平均点	受験生	Ⅱ類	206.8	56.3	59.6	44.8	46.2
		Ⅰ類	490.8	53.8	53.1	41.4	42.5
	合格者	Ⅱ類	251.5	68.2	72.3	55.0	56.0
		Ⅰ類	229.5	64.7	66.2	49.0	49.6
合格者最高点		Ⅱ類	275	81	83	68	66
		Ⅰ類	239	81	78	66	63
合格者最低点		Ⅱ類	241				
		Ⅰ類	225				

### Point!

#### 再チャレンジ受験生は35名

受験者数は昨年に比べて29名減の331名、合格者数は40名減の68名であったため、実質倍率は1.6ポイント高い4.9倍となり、受験生にとって厳しい入試となりました。第2回入試までにⅠ類に合格し、Ⅱ類に再チャレンジした受験生は35名おり、その内3名がⅡ類に合格しました。

### 3. 教科別得点分布



## 5. 第4回 2月5日 (8時30分集合 8時40分試験開始 12時25分試験終了 インターネット発表18時～)

### 1. 入試結果

定員	応募者数		受験者数		受験率		正規合格者数		実質倍率		入学者数	
約30	Ⅱ類	480	Ⅱ類	144	Ⅱ類	30.0%	Ⅱ類	Ⅱ類：13(Ⅰ類：19)	Ⅱ類	4.5倍	Ⅱ類	11
	Ⅰ類	446	Ⅰ類	200	Ⅰ類	44.8%	Ⅰ類	Ⅰ類：15(4)	Ⅰ類	13.3倍	Ⅰ類	10
	計	926	計	344	計	37.1%	計	47	計	7.6倍	計	21

\*正規合格者数Ⅰ類の( )内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

### 2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

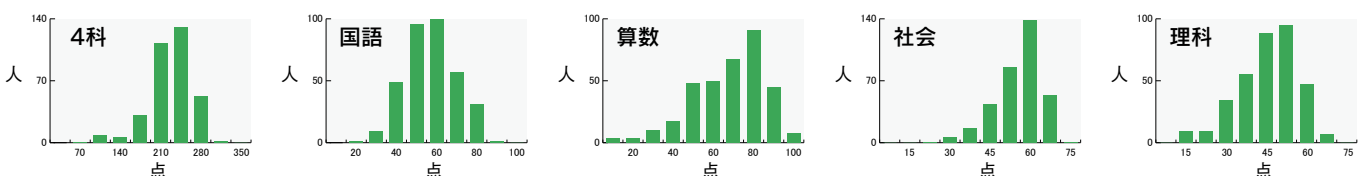
		4科	国語	算数	社会	理科	
試験時間(分)			50	50	40	40	
配点		350	100	100	75	75	
平均点	受験生	Ⅱ類	225.2	54.7	70.0	55.4	45.1
		Ⅰ類	198.2	50.5	58.0	50.3	39.5
	合格者	Ⅱ類	269.4	70.1	83.6	60.9	54.7
		Ⅰ類	254.2	64.3	80.0	59.0	51.0
合格者最高点		Ⅱ類	286	81	95	67	65
		Ⅰ類	262	80	95	66	63
合格者最低点		Ⅱ類	263				
		Ⅰ類	247				

### Point!

#### 実質倍率は7.3倍に

344名の受験生(昨年比47名減)が、本校最後の入試に臨みました。合格者数は昨年のほぼ半数の47名だったため、実質倍率は7.3倍(昨年は4.3倍)となり、受験生にとって非常に厳しい入試となりました。2/3の入試までにⅠ類に合格し、Ⅱ類に再チャレンジした受験生は46名おり、その内4名がⅡ類に合格しました。

### 3. 教科別得点分布



## 6. 帰国生入試結果概要(3年間比較) 1月6日 (8時30分集合 8時40分試験開始 インターネット発表1月6日 18時)

### Point!

#### 11年目を迎えた帰国生入試

11年目を迎えた帰国生入試の志願者は今回も200名を大きく上回り、249名が志願、235名が受験した。合格者は117名で、実質倍率は昨年と同様2.0倍となりました。英語(英検準1級レベルの出題)を利用するA方式の志願者は78名を数え、大変英語力の高い受験生が志願していたことが分かります。

### 1. 入試結果

2024年度	入試日	1月6日																		
	募集定員	Ⅱ類若干名・Ⅰ類若干名																		
	試験方式	A方式						B方式						合計						
		2教科			4教科			2教科・4教科計												
	志望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計				
	応募者数	37	41	78	12	8	20	120	31	151	132	39	171	169	80	249				
	受験者数	34	40	74	10	8	18	114	29	143	124	37	161	158	77	235				
	合格者数	Ⅱ類	Ⅰ類	10 ※ (2)	30	Ⅱ類	Ⅰ類	2 ※ (0)	5	Ⅱ類	Ⅰ類	10 ※ (2)	82	Ⅱ類	Ⅰ類	12 ※ (2)	87	Ⅱ類	Ⅰ類	22 ※ (4)
3		17	0			3	28			44	28			47	31			64		
実質倍率	1.7	4.0	2.5	3.3	4.0	3.6	1.6	2.9	1.7	1.7	3.1	1.9	1.7	3.5	2.0					
入学者数	1	11	12	0	2	2	2	14	16	2	16	18	3	27	30					
2023年度	入試日	1月6日																		
	募集定員	Ⅱ類若干名・Ⅰ類若干名																		
	試験方式	A方式						B方式						合計						
		国語型			作文型			2教科			4教科									
	志望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計				
	応募者数	61	36	97	2	4	6	11	15	26	127	40	167	201	95	296				
	受験者数	56	32	88	2	3	5	11	13	24	120	38	158	189	86	275				
	合格者数	Ⅱ類	Ⅰ類	7 ※ (3)	40	Ⅱ類	Ⅰ類	0 ※ (0)	1	Ⅱ類	Ⅰ類	2 ※ (1)	8	Ⅱ類	Ⅰ類	9 ※ (2)	86	Ⅱ類	Ⅰ類	18 ※ (6)
3		30	1			0	2			4	25			52	31			86		
実質倍率	1.7	4.6	2.2	2.0	—	5.0	1.8	6.5	3.0	1.6	4.2	1.8	1.6	4.8	2.0					
入学者数	0	10	10	0	0	0	2	1	3	2	14	16	4	25	29					
2022年度	入試日	1月6日																		
	募集定員	Ⅱ類若干名・Ⅰ類若干名																		
	試験方式	A方式						B方式						合計						
		国語型			作文型			2教科			4教科									
	志望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計				
	応募者数	56	35	91	3	7	10	18	15	33	114	32	146	191	89	280				
	受験者数	56	34	90	3	7	10	18	15	33	111	32	143	188	88	276				
	合格者数	Ⅱ類	Ⅰ類	21 ※ (3)	60	Ⅱ類	Ⅰ類	1 ※ (0)	1	Ⅱ類	Ⅰ類	3 ※ (1)	10	Ⅱ類	Ⅰ類	8 ※ (2)	80	Ⅱ類	Ⅰ類	33 ※ (6)
10		29	0			0	2			5	21			51	33			85		
実質倍率	1.4	1.6	1.5	—	7.0	10.0	2.6	5.0	3.3	1.5	4.0	1.8	1.6	2.7	1.8					
入学者数	3	21	24	0	1	1	0	3	3	3	16	19	6	41	47					

※( )内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

## 6. 帰国生入試結果(概要) 1月6日 (8時30分集合 8時40分試験開始 インターネット発表1月6日 18時)

受験生の試験方法の割合

	A方式	B方式 2科	B方式 4科
応募者	31.3%	8.0%	60.6%
合格者	25.6%	4.3%	70.1%
入学者	35.1%	5.4%	59.5%

※「入学者」については、他の受験型に再チャレンジで合格した後、入学した者を含みます。

### Point!

英語を入試科目とするA方式の受験生が31.3%

帰国生入試の英語の出題は英検準1級レベル。その試験に78名(31.3%)の受験生がチャレンジしました。また、入学者の割合は、A方式・35.1%、B方式・64.9%となりました。

## 2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点

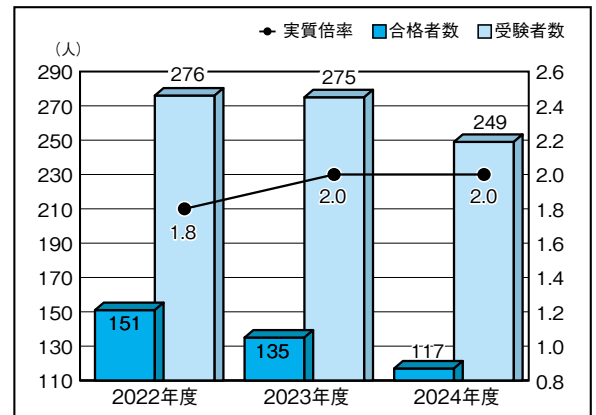
配点と時間

A方式		
試験科目	配点	時間
国語	50/100点	45分
算数	100点	45分
英語	100点	45分

※合格判断は以下の2通り  
 ① 英100+算100+国50=250点  
 ② 国100+算100=200点

B方式		
試験科目	配点	時間
国語	100点	45分
算数	100点	45分
社会	50点	45分
理科	50点	
2科合計	200点	—
4科合計	300点	—

## 3. 受験者数、合格者数、実質倍率の推移



各科目平均点

A方式			
試験科目	受験者	Ⅱ類合格者	I類合格者
国語	20.8	33.5	23.2
算数	54.4	91.6	72.4
英語	50.1	59.8	59.0

B方式			
試験科目	受験者	Ⅱ類合格者	I類合格者
国語	51.8	67.0	54.7
算数	69.1	93.0	77.9
社会	30.4	37.7	34.0
理科	27.8	35.8	29.8

合格者最高点

A方式		
試験科目	Ⅱ類合格者	I類合格者
国語	38	39
算数	94	94
英語	71	78

B方式		
試験科目	Ⅱ類合格者	I類合格者
国語	80	80
算数	100	95
社会	48	48
理科	45	42

(注1) I類合格者の各データは、Ⅱ類出願者のスライド合格者を含みます。

(注2) 帰国生入試の合格最低点を発表していないのは、試験(国・算・社・理・英)の得点だけでなく、所持している資格や活動歴などを加えて総合的に判定しているためです。

## 6. 帰国生入試 滞在国・滞在年数・帰国後年数・海外最終在籍校

**滞在国** \*なお、複数の国に滞在中にいた受験生あり。また、入学者には再チャレンジ(帰国生入試以外)での合格者を含む。

滞在国	滞在国			滞在国	滞在国			滞在国	滞在国		
	応募者	合格者	入学者		応募者	合格者	入学者		応募者	合格者	入学者
アメリカ	68	30	11	ブラジル	4	3	1	イスラエル	1	1	1
イギリス	30	18	4	インド	3	2	1	エジプト	1	0	0
シンガポール	28	12	3	南アフリカ	3	1	0	カタール	1	0	0
中国(香港を除く)	23	9	1	ロシア	3	2	1	オランダ	1	1	0
タイ	15	7	2	アラブ首長国連邦	3	0	0	イタリア	1	0	0
台湾	11	6	4	カナダ	2	0	1	ポーランド	1	1	0
ドイツ	10	3	0	韓国	2	1	0	パキスタン	1	0	0
インドネシア	8	4	1	スイス	2	2	0	バハレーン	1	1	1
オーストラリア	8	4	3	トルコ	2	1	0	ペルー	1	0	0
香港	7	6	1	ベルギー	2	0	0	ノルウエー	1	1	0
マレーシア	7	2	0	メキシコ	2	1	0	コロンビア	1	1	0
ベトナム	7	1	0	チリ	2	1	0	ギリシャ	1	1	0
フィリピン	5	2	1	オーストリア	2	0	1				
フランス	5	0	1	アルゼンチン	2	1	1				

### Point!

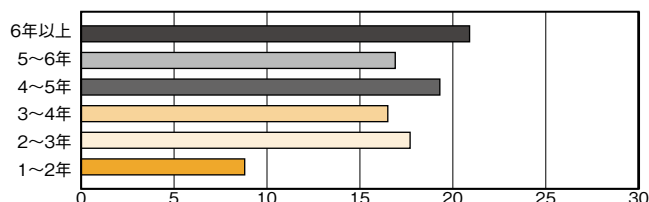
**滞在国は11年連続してアメリカがトップ**

滞在国は帰国生入試を開始して以来、連続してアメリカがトップです。また、ここ数年、中国からの志願者が減少する傾向にあります。受験生の多い滞在国は例年ほぼ変化はないが、今年も地域を問わず世界中から志願者が集まっています。

### 滞在年数

	1~2年	2~3年	3~4年	4~5年	5~6年	6年以上
応募者	22	44	41	48	42	52
合格者	12	21	16	25	18	25
入学者	4	11	6	4	5	7

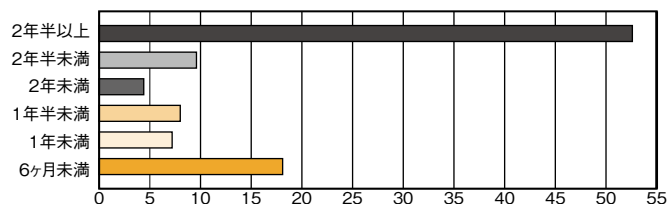
応募者の滞在年数[%]



### 帰国後年数

	6か月未満	1年未満	1年半未満	2年未満	2年半未満	2年半以上
応募者	45	18	20	11	24	131
合格者	19	8	10	7	9	64
入学者	8	1	2	2	1	23

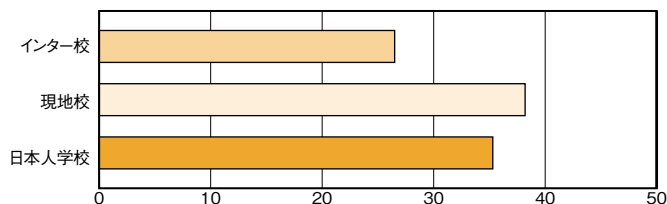
応募者の帰国後年数[%]



### 海外最終在籍校

	日本人学校	現地校	インター校
応募者	88	95	66
合格者	43	46	28
入学者	12	18	7

応募者の海外最終在籍校[%]



### Point!

**入学者の最終在籍校は『現地校+インター校』が6割超**

帰国後年数は、6ヶ月未満と2年半以上が突出しており、やや2極に分化しています。また、帰国後年数の長い受験生は、日本で進学塾に通っているケースが多く、B方式の2科目または4科目で受験しています。

## 6. 帰国生入試 英検取得状況・併願校ベスト5

### Point!

#### 英検準1級以上48名出願

今年の帰国生入試では、英検2級以上の応募者が115名に上り、そのうち18名が入学した（※「入学者」には一般、グローバル入試の入学者を含む。英検2級は大学入試共通テストのレベルにほぼ相当する）。なお、帰国生入試を経て入学した生徒の総数は37名となった。

#### 英語検定

	1級	準1級	2級	準2級	3級
応募者	0	48	67	28	18
合格者	0	28	25	10	7
入学者	0	8	10	3	8

※「入学者」には一般及びグローバル入試の入学者を含む。

### Point!

#### 併願校（1月受験校）のトップは海城

1月受験校の上位学校名は昨年度とあまり変わらないが、トップは海城となりました。2月2日受験校では、慶應義塾湘南藤沢中等部がトップ。英語を利用した受験が可能な学校が併願校として挙がっています。2月1日、3日受験校では、東京・神奈川の男子難関校にチャレンジしている受験生が多数存在します。

#### 併願校ベスト5

順位	1	2	3	4	5
～1月31日	海城中学校 40	攻玉社中学校 39	聖光学院中学校 31	東京都市大学等々力中学校 30	サレジオ学院中学校 16
2月1日	麻布中学校 13	海城中学校 9	東京都市大学付属中学校 8	駒場東邦中学校・武蔵中学校 7	
2月2日	慶應義塾湘南藤沢中等部 21	本郷中学校 10	聖光学院中学校 8	世田谷学園中学校・攻玉社中学校 7	
2月3日	海城中学校 12	慶應義塾中等部・浅野中学校 8		筑波大学附属駒場中学校 6	東京都市大学付属中学校 5

## 7. グローバル入試 2月3日（8時30分集合 8時40分試験開始 11時30分試験終了 インターネット発表18時）

### 1. 入試結果

実施年度	2024年度			2023年度			2022年度		
募集定員	Ⅱ類若干名、Ⅰ類若干名			Ⅱ類若干名、Ⅰ類若干名			Ⅱ類若干名、Ⅰ類若干名		
試験型	英語・算数・国語			英語・算数・作文			英語・算数・作文		
志望	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計	Ⅱ類	Ⅰ類	計
応募者数	17	20	37	25	32	57	15	25	40
受験者数	14	17	31	20	30	50	12	23	35
合格者数	Ⅱ類	Ⅰ類 ※(0)	計 12	Ⅱ類	Ⅰ類 ※(0)	計 21	Ⅱ類	Ⅰ類 ※(1)	計 15
	1			2			0		
	8			13			6		
	9			15			6		
実質倍率	1.6	5.7	2.6	1.3	5.0	2.4	2.0	2.6	2.3
入学者数	1	3	4	1	13	14	1	12	13

※（ ）内の数字はⅠ類志望の合格者の中で、Ⅱ類の合格基準に達した人数を表します。

### 2. 各教科の試験時間・配点・平均点・合格最高点・合格最低点

#### 配点と時間

試験科目	配点	時間(分)
英語	100	50
算数	100	50
国語	50	50

#### 平均点

試験科目	受験者	Ⅱ類合格者	Ⅰ類合格者
国語	23.4	28.0	28.8
算数	47.4	72.0	56.7
英語	78.6	97.0	87.5

#### 最高点・最低点

試験科目	Ⅱ類合格者	Ⅰ類合格者
国語最高点	28	36
算数最高点	72	65
英語最高点	97	97
3科合計合格最低点	197	161

(注) 国語と算数の問題は第3回入試と共通の問題ですが、国語は50点満点に換算してあります。

## 8. 2024年度入試 主要模試結果偏差値(80%)

### Point!

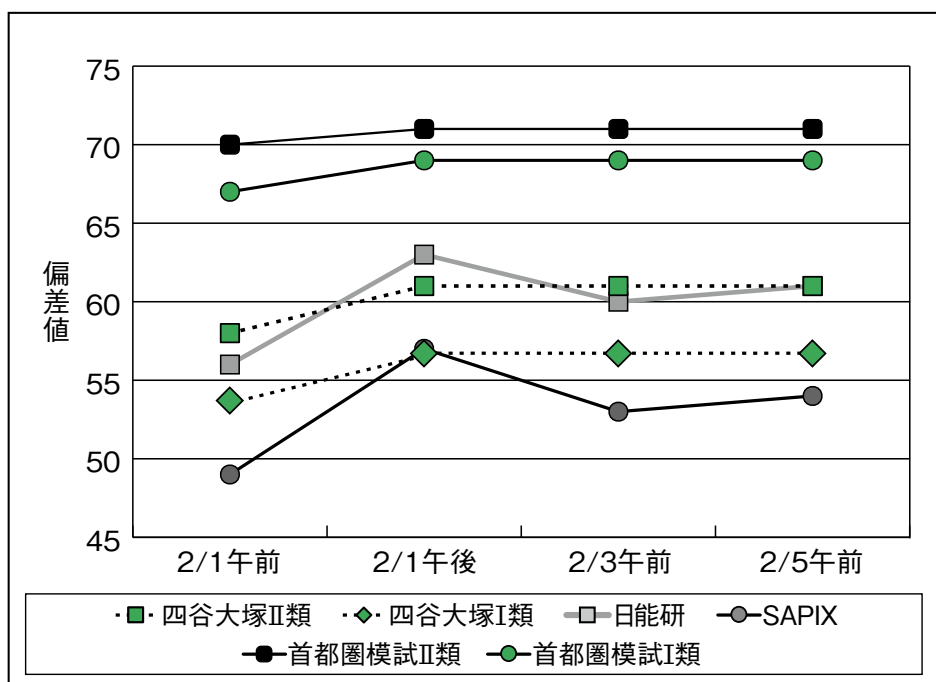
#### 結果偏差値は、各模試変動あり

大幅に日程を変更した2023年度から2年目となった2024年度入試では結果偏差値が変動しました。SAPIX、四谷大塚では全体的に難易度が高まりました。一方日能研では第1回入試(2/1午前)で4ポイント易くなるという結果となりました。単純な比較は難しく、それぞれの模試の特徴をご確認の上、参考にしてください。

主要模試 結果偏差値(80%)

		2/1 午前	2/1 午後	2/3 午前	2/5 午前	平均	
SAPIX Ⅱ・Ⅰ類	今年	49	57	53	54	53.3	
	昨年	49	55	52	54	52.5	
日能研 Ⅱ・Ⅰ類	今年	56	63	60	61	60.0	
	昨年	60	62	58	61	60.3	
四谷大塚	今年	Ⅱ類	58	61	61	61	60.2
		Ⅰ類	54	57	57	57	56.2
	昨年	Ⅱ類	57	60	60	60	59.3
		Ⅰ類	53	56	56	56	55.3
首都圏 模試	今年	Ⅱ類	70	71	71	71	70.8
		Ⅰ類	67	69	69	69	68.5
	昨年	Ⅱ類	70	71	71	71	70.8
		Ⅰ類	67	69	69	69	68.5

2024年度入試 四模試結果偏差値



## 9. 第2回入試(2月1日午後)受験生の午前の受験校

順位	学校名	人数	
		今年	昨年
1	駒場東邦	178	155
2	東京都市大付属	125	164
3	麻布	81	83
4	早稲田	68	66
5	海城	58	71
6	武蔵	55	50
7	開成	51	44
8	慶應普通部	35	36
9	サレジオ学院	31	31
10	桐朋	22	33

順位	学校名	人数	
		今年	昨年
11	攻玉社	20	11
12	早稲田実業	18	28
13	芝	16	25
13	早大学院	16	12
15	渋谷教育渋谷	12	8
16	本郷	11	16
17	城北	6	4
18	桐光学園	5	4
19	世田谷学園	4	4
20	成城	3	2

### Point!

**2/1 本校 W 受験は 125 名**

2023年度入試より「2月1日午前入試」を導入し、「2月1日午後入試」の入試科目を「2科・4科選択」から「2科のみ」に変更しました。2月1日午前入試を受験した182名のうち、125名(69%)がそのまま午後入試も受験しました。

## 10. 入学者の第1志望校・併願校(新入生保護者アンケートより)

### 入学者の第1志望校

順位	学校名	人数	昨年の順位	人数
①	東京都市大付属	59	1	70
②	駒場東邦	28	3	18
③	海城	12	2	29
③	早稲田	12	6	10
⑤	早稲田高等学院	9	16	3
⑥	浅野	8	6	10
⑥	栄光学園	8	11	5
⑧	サレジオ学院	7	12	4
⑨	聖光学院	6	6	10
⑨	麻布	6	9	8
⑨	慶應普通部	6	10	6
⑨	芝	6	12	4
⑬	武蔵	5	4	12
⑭	開成	4	12	4
⑮	広尾学園	3	12	4
⑯	早稲田実業	2	4	12

### 2024年度入試 入学者併願校

順位	学校名	人数
①	駒場東邦	31
②	海城	28
③	世田谷学園	26
③	浅野	26
⑤	芝	19
⑥	早稲田	18
⑥	サレジオ学院	18
⑧	東京農大第一	13
⑨	東京都市大等々力	12
⑨	本郷	12
⑨	桐朋	12
⑨	桐光学園	12
⑬	攻玉社	11
⑬	栄光学園	11
⑮	聖光学院	9
⑮	高輪	9
⑮	慶應中等部	9
⑱	巣鴨	8
⑱	桐蔭中等教育	8
⑳	武蔵	7

### 2023年度入試 入学者併願校

順位	学校名	人数
①	海城	48
②	世田谷学園	33
③	浅野	32
④	早稲田	23
⑤	駒場東邦	19
⑤	東京都市大等々力	19
⑦	攻玉社	18
⑦	本郷	18
⑨	芝	17
⑩	聖光学院	16
⑩	サレジオ学院	16
⑫	高輪	15
⑬	武蔵	13
⑭	早稲田実業	12
⑮	栄光学園	11
⑮	桐朋	11
⑰	広尾学園	10
⑰	桐光学園	10
⑲	渋谷教育渋谷	9
⑳	麻布	8
⑳	慶應中等部	8
⑳	東京農大第一	8
⑳	巣鴨	8
⑳	神奈川大付属	8

### Point!

**入試日程の変更が定着**

2月1日午前に駒場東邦中を受験した受験生が多く午後入試に集まったことにより、第1志望が駒場東邦中だったと回答する受験生が多くなりました。典型的な併願パターンと認識されていることがうかがえます。

## 11. 受験志望の動機など(新入生保護者アンケートより)

### Point!

#### 進学校としての指導体制に期待

このページのデータは本校に合格し、入学説明会に参加された保護者の方に行ったアンケート結果です。受験の決め手として最も多かったのは、「進学校としての指導体制」で、ここ数年同じ傾向が続いています。昨年度より実際に受験生が学校に来る機会が増えたため、「説明会や校内見学に参加して」などの項目で増加しています。

#### 本校を受験する決め手となったもの(複数回答可)

項目	進学校としての学習指導体制	説明会や校内見学に参加して	校舎・グラウンド等の施設	通学の便	行事やクラブ活動	学園祭などの生徒の様子
今年	169人(83.7%)	146人(72.3%)	113人(55.9%)	107人(53.0%)	98人(48.5%)	93人(46.0%)
昨年	195人(84.4%)	149人(64.5%)	142人(61.5%)	124人(53.7%)	106人(45.9%)	67人(29.0%)
一昨年	199人(82.6%)	156人(64.7%)	128人(52.7%)	117人(48.5%)	96人(39.8%)	31人(12.9%)
項目	先生の熱意	グローバル教育	理科実験	将来を見据えた進路指導	第一志望の併願先として	偏差値
今年	80人(39.6%)	72人(35.6%)	71人(35.1%)	69人(34.2%)	66人(32.7%)	57人(28.2%)
昨年	68人(29.4%)	71人(30.7%)	82人(35.5%)	65人(28.1%)	90人(39.0%)	71人(30.7%)
一昨年	74人(30.7%)	83人(34.4%)	108人(44.8%)	85人(35.3%)	90人(37.3%)	74人(30.7%)
項目	英語の取り出し授業	塾の先生の勧め	情報誌等の記事を読んで	大学の付属校だから	その他	
今年	22人(10.9%)	22人(10.9%)	19人(9.4%)	3人(1.5%)	5人(2.5%)	
昨年	35人(15.2%)	29人(12.6%)	29人(12.6%)	3人(1.3%)	18人(7.8%)	
一昨年	45人(18.7%)	53人(22.0%)	35人(16.2%)	5人(2.1%)	1人(0.4%)	

#### 現時点での大学進学希望(複数回答可)

項目	国公立大学	難関私立大学	子供の意志に任せる	私立大学	東京都市大学	今は考えていない
今年	154人(76.2%)	115人(56.9%)	84人(41.6%)	1人(0.5%)	1人(0.5%)	0人(0.0%)
昨年	189人(81.8%)	144人(62.3%)	73人(31.6%)	16人(6.9%)	2人(0.9%)	4人(1.7%)
一昨年	175人(72.6%)	145人(60.2%)	98人(40.7%)	25人(10.4%)	10人(4.1%)	2人(0.8%)

#### 学習塾に通い始めた学年

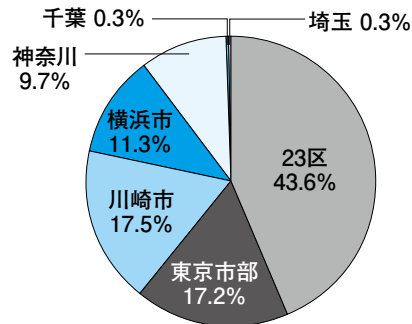
学年	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
今年	8人(4.0%)	8人(4.0%)	79人(39.1%)	87人(43.1%)	10人(5.0%)	8人(4.0%)
昨年	10人(4.3%)	13人(5.6%)	89人(38.5%)	88人(38.1%)	24人(10.4%)	3人(1.3%)
一昨年	4人(1.7%)	14人(5.8%)	92人(38.2%)	93人(38.6%)	28人(11.6%)	7人(2.9%)

## 12. 2023年度 通学地域集計表

### Point!

#### 通学圏は広範囲

首都圏の交通網の整備が進んでおり、以前より通学範囲が広がってきています。数は多くありませんが、千葉県や埼玉県からの通学者もいます。18時30分完全下校となっているため遠方からでも通いやすくなっています。



#### 東京市部

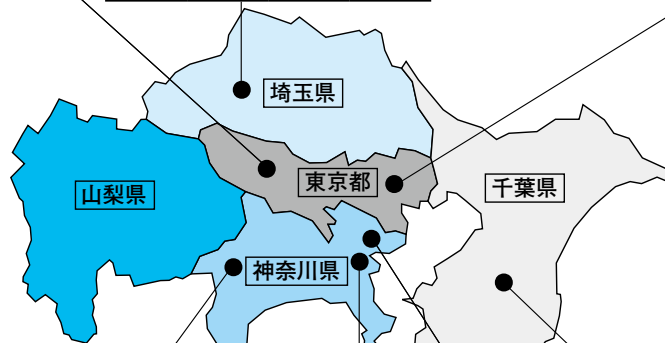
	中学生	高校生	中高計
調布	27	21	48
狛江	20	10	30
三鷹	6	9	15
武蔵野	7	5	12
町田	25	19	44
府中	12	9	21
多摩	16	10	26
稲城	9	11	20
昭島	0	1	1
国分寺	3	2	5
八王子	10	3	13
国立	1	2	3
日野	3	2	5
立川	4	3	7
小金井	0	2	2
小平	3	1	4
東村山	0	0	0
西東京	2	0	2
武蔵村山	0	2	2
計	148	112	260

#### 埼玉県

	中学生	高校生	中高計
さいたま	1	0	1
所沢	0	0	0
川越	0	1	1
越谷	0	0	0
戸田	0	0	0
八潮	0	1	1
桶川	0	0	0
比企郡	0	0	0
吉川	0	0	0
和光	0	1	1
草加	0	0	0
計	1	3	4

#### 東京都23区

	中学生	高校生	中高計
世田谷	156	163	319
目黒	22	26	48
品川	15	8	23
大田	22	27	49
港	8	6	14
中野	13	7	20
杉並	46	26	72
新宿	8	11	19
渋谷	18	17	35
墨田	3	0	3
北	0	3	3
練馬	3	5	8
葛飾	1	0	1
江東	6	1	7
中央	3	1	4
文京	7	3	10
豊島	0	2	2
足立	1	2	3
江戸川	1	3	4
板橋	4	1	5
千代田	2	2	4
台東	4	1	5
荒川	0	1	1
計	343	316	659



#### 神奈川県

	中学生	高校生	中高計
相模原	30	30	60
厚木	9	5	14
海老名	6	3	9
藤沢	4	6	10
平塚	2	0	2
大和	13	9	22
伊勢原	3	4	7
秦野	1	6	7
座間	3	5	8
小田原	1	1	2
綾瀬	1	0	1
茅ヶ崎	1	2	3
逗子	0	0	0
高座郡	0	1	1
中郡	1	0	1
計	75	72	147

#### 横浜市

	中学生	高校生	中高計
青葉	47	45	92
旭	3	1	4
緑	4	12	16
港北	10	10	20
都筑	8	9	17
神奈川	3	3	6
泉	1	0	1
港南	0	0	0
鶴見	5	4	9
瀬谷	1	1	2
保土ヶ谷	0	1	1
西	1	0	1
北	0	0	0
磯子	0	0	0
戸塚	0	1	1
中	0	0	0
栄	0	1	1
計	83	88	171

#### 千葉県

	中学生	高校生	中高計
千葉	0	0	0
船橋	0	0	0
浦安	1	2	3
市川	0	0	0
流山	1	0	1
計	2	2	4

#### 川崎市

	中学生	高校生	中高計
川崎	5	4	9
麻生	41	40	81
幸	9	4	13
多摩	11	15	26
中原	19	25	44
宮前	21	23	44
高津	26	22	48
計	132	133	265

## 13. 校納金等一覧 (2024年度)

### ●中学1年次にお支払いいただく費用

科 目		手 続 時	4 月	7 月	10 月	12 月	計
納付金	入学金	250,000円					250,000円
	授業料		129,000円	129,000円	129,000円	129,000円	516,000円
	施設設備料		150,000円				150,000円
	維持料		100,000円				100,000円
預り金	学年費		70,000円				70,000円
	図書費		1,800円				1,800円
	ICT教育関係費※		150,000円				150,000円
	災害備蓄用品費		5,000円				5,000円
	中2体験旅行積立金				20,000円	20,000円	40,000円
	中1林間学校費		60,000円				60,000円
	生徒会入会費		2,000円				2,000円
	生徒会費		6,000円				6,000円
	P T A 入会金		3,000円				3,000円
	P T A 会費		10,000円				10,000円
	日本スポーツ振興センター掛金		420円				420円
合 計		250,000円	687,220円	129,000円	149,000円	149,000円	1,364,220円

\*付属高校進学の際は、あらかじめ入学金を納入していただきます。

\* ICT 教育関係費は、デバイス及び学習支援ツールの購入費です。

### ●上記以外に購入していただく指定物品

学生服 冬服 (上着+ズボン+ワイシャツ+ベルト)	43,450 円
夏服 (ズボン+半袖ワイシャツ)	13,310 円

カバン (ショルダー)	7,000 円
カバン (リュック)	9,800 円
体操着 (トレシャツ)	6,930 円
体操着 (トレパン)	4,730 円
体操着 (半袖シャツ)	3,410 円
体操着 (ハーフパンツ)	4,070 円
体育館シューズ	5,200 円
シューズ袋	300 円
白衣	2,800 円
白衣袋	350 円

\*カバンはショルダーかリュックのいずれかを購入。

### ●希望購入品

長袖ワイシャツ (校章入り)	3,080 円
セーター (校章入り)	8,140 円
ポロシャツ	5,060 円
運動靴 (スニーカー)	6,490 円

#### Point!

寄付金や学債、補習費などは一切なく、これ以外に必要なのは、クラブ活動の部費や合宿費と、高校の教科書代のみです。

## 14. 2024年度 中学校使用教科書・副教材一覧

### ●教科書

科目	学 年	出 版 社	書 名
国語	1	教 出	伝え合う言葉 中学国語1
国語	2	教 出	伝え合う言葉 中学国語2
国語	3	教 出	伝え合う言葉 中学国語3
書写	1	教 出	中学書写
地理	1・2	帝 国	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
歴史	1～3	帝 国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
公民	3	帝 国	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して
地図	1～3	帝 国	中学校社会科地図
数学	1	啓 林 館	未来へひろがる数学1
数学	2	啓 林 館	未来へひろがる数学2
数学	3	啓 林 館	未来へひろがる数学3
理科	1	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス1
理科	2	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス2
理科	3	啓 林 館	未来へひろがるサイエンス3
音楽	1	教 出	中学音楽 1 音楽のおくりもの
音楽	2・3	教 出	中学音楽 2・3上 音楽のおくりもの
音楽	2・3	教 出	中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの
器楽	1～3	教 出	中学器楽 音楽のおくりもの
美術	1	光 村	美術1
美術	2・3	光 村	美術2・3
保体	1～3	大 修 館	最新 中学校保健体育
技術	1～3	東 書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology
家庭	1～3	開 隆 堂	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生
英語	1	東 書	NEW HORIZON English Course 1
英語	2	東 書	NEW HORIZON English Course 2
英語	3	東 書	NEW HORIZON English Course 3
道徳	1	東 書	新訂 新しい道徳1
道徳	2	東 書	新訂 新しい道徳2
道徳	3	東 書	新訂 新しい道徳3

※上記のほかに、高校の教科書を前倒して使用

### ●副教材（中1）

科目	書 名	出版社	科目	書 名	出版社
国語	新訂総合国語便覧新版七訂	第一学習社	地学	系統的に学ぶ 中学 地学	文理
	国語スイッチ1（ノートつき・教育出版）	正進社		中学の地学	教育開発出版
	漢字学習ステップ4級改訂四版	漢検協会		地学・科学実験	最新 理科便覧 東京都版
	思考の基礎力【増補版】	受験研究社	英G	English Search I	教育開発出版
	文豪へのいざない	好学出版	英C	Time Zones Student Book Combo Split 1A	Cengage Learning
社会	アドバンス中学地理資料	帝国書院	英R	NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 1	Z会出版
代数	体系数学1（代数編）	数研出版		NEW TREASURE ENGLISH SERIES WORKBOOK STAGE 1	Z会出版
	体系問題集数学1代数編【発展】本冊	数研出版		NEW TREASURE ENGLISH SERIES Penmanship	Z会出版
	体系問題集数学1代数編【発展】解答編	数研出版		NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 1 CDs for Students	Z会出版
	体系数学1（幾何編）	数研出版		New Treasure English Series Stage 1 文法問題集	Z会出版
幾何	体系問題集数学1幾何編【発展】本冊	数研出版		エースクラウン英和辞典 第3版【小型版】	三省堂
	体系問題集数学1幾何編【発展】解答編	数研出版		保健体育	ActiveSports
			音楽	音楽のハーモニー1	正進社

### 👉 Point!

#### 英語RはNew Treasureを使用

文科省の検定教科書は無償配布ですが、特に前倒しのカリキュラムを組んでいる英語と数学では、オリジナルテキストや家庭学習用の問題集を副読本として使用し、きめの細かい指導を行っています。また、コース制導入に伴い、英語Rの授業ではNew Treasureを使用しています。なお、英語の取り出し授業では、アメリカの現地校で使用しているテキストを取り寄せ、高度な内容の授業を展開しています。

# 15. 夏期・冬期・春期講習 開講講座(学年別)

## Point!

### 放課後に加え、休業中の講習も

平常の放課後と同様に、生徒の学力や進路希望に応じて基礎補習と応用講座を開講しています。カリキュラム上平常の授業で実施できない高1の化学などを休業中の講座で補っています。

学年	教科	講座名
中1	英語	基礎
中1	英語	応用Ⅰ類
中1	英語	応用Ⅱ類
中1	英語	英語(取り出し)
中1	数学	数学応用Ⅰ類
中1	数学	数学応用Ⅱ類
中2	英語	英語(取り出し)
中2	英語	基礎
中2	英語	応用Ⅰ類
中2	数学	応用Ⅱ類
中2	数学	基礎
中3	英語	英語(取り出し)
中3	英語	応用
中3	英語	基礎
中3	数学	基礎
中3	数学	数学応用
高1	英語	応用
高1	英語	基礎
高1	英語	英語(取り出し)
高1	英語	英語応用
高1	国語	現代文演習
高1	国語	古文演習
高1	数学	基礎
高1	数学	応用
高1	数学	数学応用
高1	理科	化学基礎
高2	英語	現代文演習
高2	英語	基礎重要文法
高2	英語	高校2年英語
高2	英語	英文法
高2	英語	高2英語
高2	英語	東大英語
高2	国語	漢文上級問題演習
高2	国語	古文上級問題
高2	国語	数学Ⅲ応用
高2	国語	東京大学英語
高2	国語	古文上級問題演習
高2	情報	情報(計算問題)
高2	数学	数学応用ⅠAⅡB
高2	数学	東大数学
高2	理科	東大レベル化学
高2	理科	物理標準
高2	理科	物理応用(理系)
高2	理科	振り返り勉強会
高2	理科	生物基礎応用演習

学年	教科	講座名
高2	理科	東大化学
高2	理科	物理応用
高3	英語	東大英語
高3	英語	英語応用
高3	国語	共通テスト[漢文]
高3	国語	共通テスト[古文]
高3	国語	共通テスト[現代文]
高3	国語	漢文記述
高3	国語	古文記述
高3	国語	現代文記述
高3	社会	共通テスト[地理]
高3	社会	地理国公立論述対策
高3	数学	共通テスト[数学]
高3	数学	東大・東工大・国公立 医学部レベル数学Ⅲ
高3	数学	東大・東工大・国公立 医学部レベル数学Ⅲ2
高3	数学	難関国公立文系数学
高3	数学	難関国公立理系数学
高3	理科	物理標準
高3	理科	有機化学(大学入試問題演習)
高3	理科	物理応用
高3	理科	有機化学(大学入試問題演習)2
高3	理科	【動画】有機化学(大学入試問題演習)

学年	教科	講座名
中1	英語	英語応用Ⅰ類
中1	英語	英語応用Ⅱ類
中1	英語	英語基礎
中1	英語	英語(取り出し)
中1	数学	数学応用
中1	数学	数学基礎
中2	英語	英語応用
中2	英語	英語基礎
中2	英語	英語(取り出し)
中2	数学	数学応用
中2	数学	数学基礎
中3	英語	英語応用Ⅰ類
中3	英語	英語応用Ⅱ類
中3	英語	英語基礎
中3	英語	英語(取り出し)
中3	数学	数学応用
中3	数学	数学基礎
高1	英語	英語基礎
高1	英語	英語応用
高1	英語	英語(取り出し)
高1	英語	英語応用
高1	国語	現代文演習

学年	教科	講座名
高1	国語	古典演習
高1	数学	数学基礎
高1	数学	数学入試
高1	理科	化学基礎
高2	英語	英文法
高2	英語	共通テスト英語
高2	英語	英語長文読解
高2	英語	東京大学英語
高2	英語	共通テスト英語
高2	英語	英語長文読解
高2	英語	東京大学英語
高2	国語	現代文演習
高2	国語	古文読解基礎
高2	国語	古典応用問題演習
高2	国語	古典応用
高2	情報	プログラミング基礎
高2	数学	数学ⅠAⅡBベクトル応用
高2	数学	数学Ⅲ応用
高2	数学	数学ⅠAⅡBベクトル応用
高2	理科	物理標準
高2	理科	東大化学
高2	理科	化学集中勉強会
高2	理科	化学集中勉強会
高2	理科	東大化学
高3	国語	共通テスト対策(現代文)
高3	国語	共通テスト対策(古文)
高3	国語	共通テスト対策(漢文)
高3	理科	共通テスト対策(物理)
高3	理科	化学
高3	理科	共通テスト生物演習

学年	教科	講座名
中1	英語	基礎
中1	英語	応用
中2	英語	基礎
中2	英語	応用
中3	英語	基礎
中3	英語	応用
高1	英語	基礎
高1	英語	応用
高1	理科	化学基礎
高2	英語	応用
高2	理科	化学基礎(理系)

※開講される講座は、年度によって異なります。

## 16. 高2 駿台模試 結果 2024年2月実施

### ◆全体概況

	英数国	英語	数学	国語
	偏差値	偏差値	偏差値	偏差値
全体	52.2	48.0	53.9	47.8
I類	42.3	40.1	47.3	41.5
II類	58.5	56.6	59.2	53.4

### 👉 Point!

#### 使用する模試を変更

中高一貫校が在校生の学力を定点観測するために模擬試験を活用しています。在校生の学力水準が向上していることを踏まえて、高校2年生の3学期に取り組む模擬試験をより高度な内容を扱う駿台模試に変更しました。今後の推移に注目です。

## 17. 中学生検定取得率

### 英検 (2023年度 第3回まで)

	中1	中2	中3
1級	0.7%	2.6%	1.7%
準1級	5.6%	9.8%	10.6%
2級	10.9%	20.0%	28.8%
準2級	17.6%	47.5%	75.4%
3級	63.1%	91.3%	97.0%

### 漢検 (2023年度 第3回まで)

	中1	中2	中3
2級		0.0%	0.9%
準2級		3.0%	43.7%
3級	4.4%	66.0%	77.8%
4級	90.7%	92.7%	96.0%

### 👉 Point!

#### 帰国生の影響は国内生にも

英語力の高い帰国生の影響を受けて、国内生の英語に対するモチベーションが大きくアップしており、英検合格率も高くなっています。3学期に実施されたニュージーランドターム留学に参加した中3生は2月に実施された第3回英検・漢検を受験できませんでした。また今年度はインフルエンザ等の流行により受験できなかった生徒が多くいました。

## 18. 2023年度 クラブ所属部員数(中学・高校)

### I 部活動

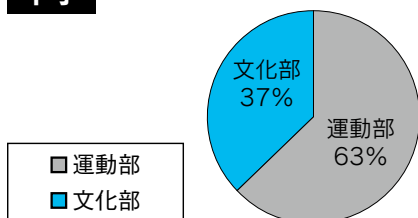
#### 【運動部】

部活動名	部員数(中学)				部員数(高校)			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
アメリカンフットボール部					12	8	3	23
アイスホッケー部	8	4	3	15	4	8	1	13
競技スキー部	7	6	5	18	6	6	1	13
剣道部	4	3	4	11	1	3		4
硬式野球部	23	9	5	37	6	7	6	19
ゴルフ部	10	5	9	24	8	7		15
サッカー部	24	21	25	70	22	34	15	71
少林寺拳法部	6	5	10	21		5	11	16
自転車部					8	4		12
柔道部	8	2	5	15	7	9	2	18
水泳部	7	6	5	18	3	9	5	17
卓球部	21	13	15	49	9	7		16
テニス部	5	13	4	22	11	15	9	35
ハンドボール部						22	11	33
バスケットボール部	14	26	8	48	10	8	9	27
バドミントン部	30	32	17	79	20	9	4	33
軟式野球部	10	14	8	32	11	4	4	19
陸上競技部	9	9	5	23	11		7	18

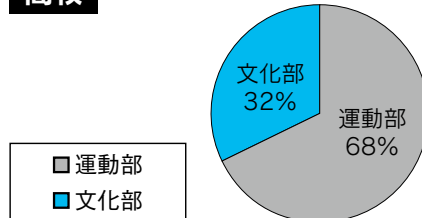
#### 【文化部】

部活動名	部員数(中学)				部員数(高校)			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
エレクトロニクス研究部	7	20	7	34		5	5	10
軽音楽部					11	9		20
将棋部	11	9	1	21	2	9	15	26
自動車部	8	11	13	32	5	3		8
吹奏楽部	26	19	18	63	12	19		31
生物研究部	12	10	8	30	8			8
鉄道研究部	16	14	20	50	11	9	3	23
天文部	6	3	9	18	4	3		7
美術部		1	6	7	5	4		9
マルチメディア研究部	9	10	5	24	13	8		21

#### 中学



#### 高校



### Point!

#### 多種多様なクラブ・高い加入率

本校では、「勉強もクラブも100対100」という先輩の言葉を励みに、多くの生徒がクラブ活動を楽しんでいます。活動日は原則週3回。中高合わせて28種類の運動部、文化部があります。2023年度は感染症対策が緩和され、多くの大会がコロナ禍以前の水準で実施されました。

## 19. 2023年度 クラブ活動・教科活動主要実績一覧

### Point!

#### 勉強と部活動を高いレベルで両立

少林寺拳法部が初めてインターハイに出場するなど多くのクラブで輝かしい成果を取めました。先輩たちの奮闘に触発された後輩たちのこれからの更なる取り組みに期待します。

#### 【中学】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
サッカー部	東京都選手権大会世田谷区大会	優勝
	東京都中学校サッカー新人大会	第3位
水泳部	世田谷区水泳協会水泳競技大会	50m自由形4位、50m背泳ぎ5位、50m自由形3位、50mバタフライ1位、200mフリーリレー2位
	東京都中学校選手権水泳大会	200m自由形8位入賞、400m自由形タイム決勝10位
	関東中学校水泳競技大会	200m自由形決勝進出9位、400m自由形17位、100m背泳ぎ32位、200m背泳ぎ33位
	東京都中学校学年別水泳競技会	3年男子50m背泳ぎ5位、2年男子100m自由形4位、2年男子100m背泳ぎ10位
卓球部	世田谷区中学校卓球選手権大会	団体戦2位
	第70回 東京私立中学高等学校卓球大会	中学男子団体戦準優勝、中学男子シングルス ベスト8
	第75回第8支部卓球選手権大会	中学男子団体戦優勝、中学男子シングルス2位、中学男子ダブルス2位、3位
	世田谷区中学校秋季研修大会	男子シングルス2位
	世田谷区中学校新人卓球大会	男子シングルス優勝、4位、5位
バドミントン部	第33回東京都中学校区部新人卓球大会	中学男子団体
	世田谷区夏季選手権大会	団体戦3位、個人戦シングルス1位、5位、個人戦ダブルス5位
	東京都Aブロック夏季選手権大会	個人戦シングルス2位
	JOC全日本ジュニアバドミントン選手権東京都Aブロック大会	個人戦シングルス第2位
	JOC全日本ジュニアバドミントン選手権東京都大会	個人戦シングルス第3位
	世田谷区中学校新人大会	団体戦準優勝、男子シングルス優勝
	東京都Aブロック中学校新人大会	男子シングルス優勝
	東京都バドミントン冬季Aブロック大会	男子シングルス2位
	世田谷区バドミントン1年生大会	男子シングルス3位
	世田谷区バドミントン冬季大会	男子ダブルス3位、男子シングルス1位
テニス部	世田谷区中学校秋季新人テニス大会	ダブルス第5位
軟式野球部	世田谷区中学校秋季新人大会	第4位
	世田谷区軟式野球連盟 秋季大会	準優勝
陸上競技部	世田谷区中学校対抗選手権	共通男子走幅跳第3位、共通男子走高跳第3位、1年男子4×100mリレー第2位
	東京都支部対抗陸上競技選手権	1、2年男子走幅跳第7位
少林寺拳法部	東京都中学校少林寺拳法大会	○単独演武の部(紹介のみ)3位、○団体演武の部2位

#### 【高校】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
アイスホッケー部	第78回国民スポーツ大会アイスホッケー競技会(少年の部)	高校男子団体4位
バドミントン部	東京都私立第8支部大会	団体戦準優勝
卓球部	地区別学校対抗卓球大会	高校男子団体戦 西地区第3位
	第75回第8支部卓球選手権大会	高校男子団体戦優勝、高校男子シングルス3位、高校男子ダブルス優勝、2位
	世田谷ジュニア卓球大会	高校男子シングルス2位
剣道部	第73回世田谷区民体育大会剣道大会	高校2年個人の部第3位
少林寺拳法部	東京都高等学校総合体育大会少林寺拳法大会	○団体演武の部3位、○組演武の部2位、4位
	第54回関東高等学校少林寺拳法大会	○団体演武の部7位入賞、○組演武の部(紹介のみ)7位
	東京都高等学校新人大会	自由単独演武3位
	関東高等学校選抜少林寺拳法大会	自由単独演武第8位
高校自転車部	東京都高等学校新人大会	Aクラス5位、Bクラス2位、Bクラス3位

#### 【文化部・個人】

クラブ名	大会名(主催者名)	成績
高校マルチメディア研究部	WRO Japan 2023 東京高校生予選会	RoboMission エキスパート部門5位
	パソコン甲子園 2023 プログラミング部門	予選10位・本選出場
	AtCoder Junior League 2023	高1個人ランキング第10位
	第23回日本情報オリンピック本選	本選Aランク
中学マルチメディア研究部	WRO Japan 2023 年度 公認 東京小・中予選会	RoboMission ミドル競技 中学生部門3
中高吹奏楽部	第63回東京都高等学校吹奏楽コンクール・東日本組	金賞

## 20. 2024年度 大学合格実績一覧

### ◎ 国公立大学

大学名	2024年度合格者数		
	現役	既卒	合計
大阪大学	1	1	2
九州大学	1	0	1
京都大学	2	0	2
熊本大学	1	0	1
群馬大学	1	0	1
国際教養大学	1	0	1
信州大学	2	0	2
高崎経済大学	2	0	2
千葉大学	1	1	2
筑波大学	0	3	3
電気通信大学	4	0	4
東京大学	6	0	6
東京医科歯科大学	1	0	1
東京外国語大学	1	0	1
東京海洋大学	1	0	1
東京学芸大学	1	0	1
東京工業大学	7	1	8
東京都立大学	6	0	6
東京農工大学	3	0	3
東北大学	7	1	8
徳島大学	1	0	1
一橋大学	6	0	6
広島大学	1	0	1
北海道大学	3	3	6
横浜国立大学	7	2	9
横浜市立大学	3	0	3
合計	70	12	82

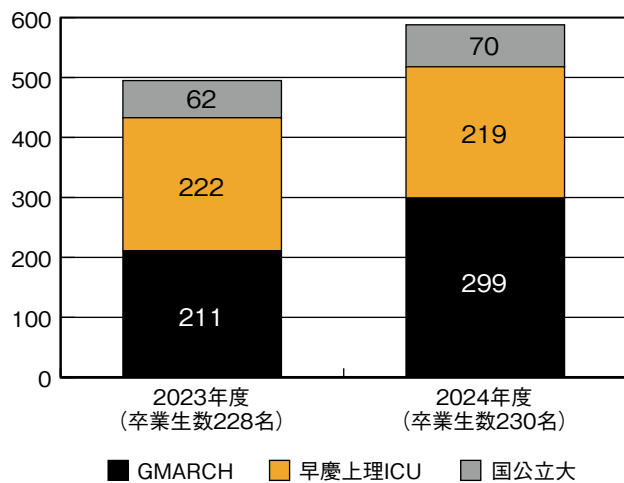
### ◎ 私立大学

大学名	2024年度合格者数			大学名	2024年度合格者数		
	現役	既卒	合計		現役	既卒	合計
青山学院大学	27	5	32	帝京大学	1	1	2
桜美林大学	1	0	1	東海大学	8	0	8
大手前大学	0	1	1	東京工科大学	1	0	1
学習院大学	6	3	9	東京慈恵会医科大学	2	1	3
神奈川大学	1	0	1	東京電機大学	7	0	7
北里大学	9	1	10	東京都市大学	30	5	35
京都精華大学	0	1	1	東京薬科大学	1	0	1
杏林大学	1	0	1	東京理科大学	58	8	66
近畿大学	0	1	1	同志社大学	2	1	3
慶應義塾大学	62	12	74	東邦大学	2	0	2
工学院大学	17	2	19	東洋大学	8	0	8
國學院大学	10	4	14	二松学舎大学	0	2	2
国際医療福祉大学	2	3	5	日本大学	11	4	15
国際基督教大学	2	0	2	日本医科大学	1	0	1
駒澤大学	5	2	7	法政大学	48	12	60
芝浦工業大学	27	0	27	星薬科大学	1	1	2
順天堂大学	7	2	9	武蔵大学	3	2	5
上智大学	28	8	36	武蔵野大学	4	0	4
昭和大学	2	0	2	武蔵野美術大学	2	0	2
成蹊大学	9	4	13	明治大学	122	20	142
成城大学	4	0	4	明治学院大学	5	1	6
聖マリアンナ医科大学	2	0	2	明治薬科大学	1	0	1
専修大学	9	1	10	明星大学	2	0	2
多摩美術大学	2	0	2	立教大学	22	3	25
千葉工業大学	9	0	9	立命館大学	4	1	5
中央大学	74	14	88	早稲田大学	67	15	82
合計	729	141	870	合計	729	141	870

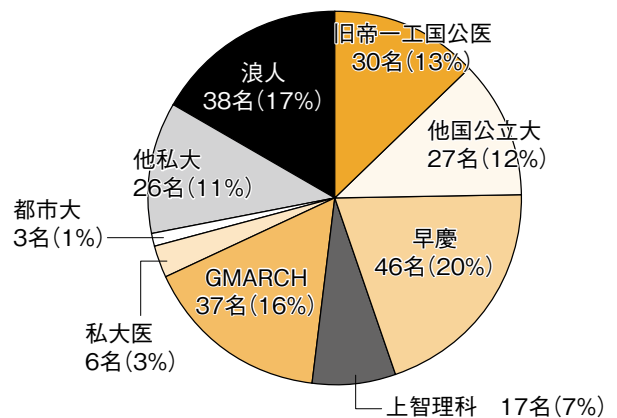
### ◎ 医学部医学科合格者

大学名	2024年度合格者数		
	現役	既卒	合計
東京大学	1	0	1
東北大学	1	1	2
東京医科歯科大学	1	0	1
大阪大学	0	1	1
筑波大学	0	2	2
防衛医科大学	2	1	3
慶応大学	1	1	2
東京慈恵会医科大学	2	1	3
順天堂大学	3	2	5
日本医科大学	1	0	1
昭和大学	2	0	2
東邦大学	1	0	1
日本大学	1	0	1
北里大学	1	0	1
国際医療福祉大学	2	3	5
東京医科大学	0	0	0
杏林大学	1	0	1
帝京大学	1	0	1
聖マリアンナ医科大学	2	0	2
東海大学	1	0	1
埼玉医科大学	0	0	0
獨協医科大学	0	0	0
金沢医科大学	0	0	0
福岡大学	0	0	0
合計	24	12	36

難関大学への現役合格者数（昨年比）



高校 71 期進学状況（卒業生数 230 名）



### Point!

#### 東京大学理科Ⅲ類に進学

国公立大学への合格者、早稲田大学・慶応義塾大学などの難関私立大学への合格者が増加しました。東京大学理科Ⅲ類への本校としては初めての合格となりました。右下のグラフは現役生の進学者実数のデータです。

## 21. 2023年度 指定校推薦主要大学

### Point!

指定校推薦枠の総数は300名以上

例年、多くの有名大学から指定校枠をいただいております。近年では医歯薬系の枠が増えています。しかしながら、指定校推薦の希望者が募集枠に達するのは早稲田大学などごく一部の大学のみで、他大学については定員に達しない状況が続いています。

大学名	学部	学科	人数	大学名	学部	学科	人数
青山学院大学	理工	電気電子工	1	東京薬科大学	薬	男子部	2
学習院大学	経済	経済	1	生命科			2
北里大学	理	数	2	A類 理学部第一部	化		1
工学院大学	薬	生命創薬科	1	A類 薬	生命創薬科		1
工学院大学	先進工		4	A類 工	電気工		1
	工		3		情報工		1
	建築		2	A類 創域理工	生命生物科		1
	情報		2		建築		1
芝浦工業大学	工	機械工学課程 基幹機械コース	1	東京理科大学	A類 先進工	マテリアル創成工	1
		機械工学課程 先進機械コース	1			生命システム工	1
		物質化学課程 環境・物質工学コース	1			機能デザイン工	1
		物質化学課程 化学・生命工学コース	1	A類 経営		ビジネスエコノミクス	1
		電気電子工学課程 電気・ロボット工学コース	1			国際デザイン経営	1
		電気電子工学課程 先端電子工学コース	1	B類 理学部第一部		数、物理、化、応用数、応用化	1
		情報・通信工学課程 情報通信コース	1	同志社大学	商	商学総合コース	1
		情報・通信工学課程 情報工学コース	1	東邦大学	理	生物	1
	システム理工	電子情報システム	1			生物分子科	1
		機械制御システム	1			物理	1
		環境システム	1			情報科	2
		生命科(生命科学コース)	1	生命圏環境科	1		
		生命科(生命医学コース)	1	日本大学	法	第一部法律・政治経済・新聞・経営法 第二部法律	学部で1
		数理科	1		生産工	機械工、電気電子工、土木工、建築工、応用分子化、マネジメント工、数理情報工、環境安全工、創生デザイン	学部で1
デザイン工	デザイン工(生産・プロダクトデザイン系)	1	文理		英文	1	
	デザイン工(ロボティクス・情報デザイン系)	1			数学	1	
建築	建築SAコース(空間・建築デザインコース)	1	松戸歯		若干名		
	建築UAコース(都市・建築デザインコース)	1	法政大学	理工	機械工学科航空操縦学専修を除く	1	
順天堂大学	医療科	臨床工	1	武蔵大学	国際教養	国際教養	1
	健康データサイエンス	健康データサイエンス	1	明治大学	理工	機械情報工	1
上智大学	法	地球環境法	1			機械工or建築or応用化or情報科	いずれか1
	理工	物質生命理工	1		総合数理	ネットワークデザイン	1
		機能創造理工	1	明治学院大学	文or経済or社会or法or国際	フランス文or経済or社会福祉or法律or消費情報環境法or政治or国際	いずれか1
情報理工	1	経済	経済		1		
昭和薬科大学	薬	6年制	1		法	法律	1
成蹊大学	理工		1		心理	教育発達	1
中央大学	商		1		文、社会、法	スポーツ枠。詳細は表を参照。	
	経済		1	明治薬科大学	薬	薬(6年制)	1
	総合政策		1		生命創薬科(4年制)	1	
東海大学	法	法律	1	横浜市立大学	国際商	国際商	1
	情報通信	情報通信	1	早稲田大学	基幹理工	学系II	1
	工	機械システム工	1		創造理工	環境資源工	1
東京都立大学	都市環境	都市基盤環境	1		商		1
			1		文化構想		1
			1		文		1

## 22. 2024年度 学校説明会・行事日程

### ○学校説明会

6/15(土)、9/7(土) 14:00～16:30 (個別相談+校内見学を含みます)

### ○イブニング説明会

7/19(金) 18:30～20:00 (個別相談+校内見学を含みます)

### ○帰国生&グローバル入試説明会

7/29(月) 10:00～11:30 詳細はホームページで発表いたします

### ○柏苑祭(文化祭)

9/28(土)、9/29(日)

### ○入試説明会

11/17(日) 10:00～12:30 (個別相談+校内見学を含みます)

### ○ミニ説明会

①4/13(土) ②4/27(土) ③5/25(土) ④9/21(土) ⑤10/12(土) ⑥10/26(土) ⑦12/7(土)  
10:00～11:30

※学校説明会は学校生活、入試説明会は入試関連の話題が中心になります。

※すべての説明会で帰国生&グローバル入試説明会を行います。

### ○個別見学(予約必要) 随時実施

○説明会の予約は、開催の1ヶ月前に学校ホームページ(<https://www.tcu-jsh.ed.jp/>)でご案内いたしますので、ご覧の上お申し込みください。

## 23. 2024年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度

### ● 2024年度 中学入試 第1回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	81%	86%	全ての生きものは等しくたましいを持つものとし、人間中心に全てのものごとを捉えようとする我々人間の有り様を問い直すテーマで書かれており、その主題に沿って展開していく論旨を正しく丁寧に読めているかを問う。	大きな論旨は概ね読み取れていたと思う。文中のキーワードも押さえられていたが、細部における論の展開でのつながりがうまく読み取れていない点が見られ、合格者、不合格者の差がつく問題になったと思われる。記述問題においても同様である。
	問2	93%	97%		
	問3	86%	93%		
	問4	84%	85%		
	問5	68%	80%		
	問6	87%	93%		
	問7	32%	36%		
	問8	83%	94%		
	問9	61%	74%		
	問10	68%	77%		
2	問1 A	64%	73%	野球が好きな二人の少年が出会い、同じ中学でバッテリーを組んで活躍していく姿を描いた作品である。彼らの言動を通して、心情や考えを読みとっていくことが中心の出題である。	ほぼ予想どおりの結果であるが、問4については、受験生全体の語彙力不足を感じさせる結果となった。例年感じることだが、小説というジャンルに苦手意識があるとすれば、語彙力の低さにもその一因があるように思われる。
	B	76%	80%		
	問2	42%	53%		
	問3	74%	89%		
	問4	42%	39%		
	問5	66%	79%		
	問6 I	81%	89%		
	II	42%	55%		
	問7	70%	81%		
	問8	79%	89%		
	問9	60%	61%		
問10	26%	42%			
3	問1	63%	76%	少し古い時代の詩を出題することでさまざまな日本語の文体、語彙に慣れているかどうかを問おうとした。	全受験者と合格者の正答率の差が多く出たのが問1と問5でどちらも内容の読み取りが求められる問であった。詩を読む際にはその情景を頭の中に浮かべながら読む訓練をしたい。
	問2	70%	77%		
	問3	55%	57%		
	問4	54%	57%		
	問5	60%	71%		
4	問1 1	84%	87%	漢字の勉強を効率よくするために必要な知識は、漢字の多くが意味を表す部首と音を表す部分の組み合わせでできているということだ。そこで毎年のように部首に関する問題を出している。部首の由来や意味はぜひ勉強しておいてほしい。	この問題はそれぞれの組み合わせを考えるより、1～10の選択肢が表す部首を先に明らかにした方が早く解けるだろう。イや禾のように部首名が意味を表していないものには特に注意が必要。
	2	68%	77%		
	3	92%	93%		
	4	73%	83%		
	5	80%	84%		
	問2 A	26%	27%		
	B	19%	29%		
	C	34%	46%		
	D	32%	41%		
	E	27%	37%		

● 2024年度 中学入試 第1回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	93%	100%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、小数点以下の数字の規則性を探し条件を満たす和を求める問題、図形(平面・立体)の基本的な処理を問う問題などを出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。	問4以外は解きやすい問題で、全体的に得点率の高いものとなった。また問8の回転体の体積の問題は典型的な問題であるが、計算ミスのため、得点率が低めになってしまった。問4と問8の出来が合否を分ける結果となった。
	問2	79%	81%		
	問3	69%	88%		
	問4	35%	59%		
	問5	81%	87%		
	問6	72%	86%		
	問7	83%	86%		
	問8	52%	73%		
2	問1	76%	93%	本校の入試では典型的な平面図形の問題。平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方などが理解できているかがポイントとなる。線分比と面積比に関する標準的な問題である。	問1は線分比の基本的な問題であり、得点率は高かった。また、問2では面積が等しいことを利用して、線分比を求める問題。問3は問2まで求めた線分比を利用して面積比を求める問題。基本を押さえつつ、どこまで応用問題に取り組めるかが大切である。
	問2	34%	56%		
	問3	18%	39%		
3	問1	87%	96%	特殊算の複合問題(たこ焼きの箱とジュースセット)。箱のみで買う場合とセットの場合での条件整理ができるかがポイント。また、全体的に桁数が多い計算となるので、工夫して計算できるか否かもカギとなる。	問1、問2は典型的なつるかめ算の問題であったので、正答率は高かった。問3は比の合成を使って、それぞれの比を求め、合計金額に関する式を立式できるかがポイントとなった。桁数が多い分、計算を確実にできるかも合否の分かれ目になったかもしれない。
	問2	79%	89%		
	問3	7%	14%		
4	問1	73%	86%	円柱と三角錐の容器内の水の体積に関する問題。半径や高さの比を活用して、円柱と三角錐の容器に入っている水の割合を求められるかを見る問題であった。	問1は基本的な問題であり、確実に得点しておきたい。問2は条件が少し複雑であるが、相似比を上手く活用して、中に入れた円柱の棒の半径を求め、追加して入れた水の量を求められるかがポイントとなった。
	問2	19%	36%		
5	問1	4%	7%	2人がコインを投げ得点を競い、コインの表裏の出方を考える、場合の数に関する問題。2人合わせて5回目は必ず裏であることに気付けると数え上げが楽になる問題であった。	問1はゲームが終わるまでの表裏の出方を考える問題。漏れなく数え上げられるかがカギとなった。パターンが複雑な分、正答率も下がってしまった。問2は得点に関する問題。問1が正解しなくても、A、Bの表裏の出方を考えると正解に辿り着けた受験生も多かった。
	問2	33%	46%		

● 2024年度 中学入試 第1回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	66%	76%	各都道府県の位置、人口や面積、気候、中心都市、おもな産業や農畜産業の特色などを多角的に問うことを出題のねらいとした。データの読み取りから、各都道府県の特徴を見出す力も求めた。また、地名などの基本的な学習事項を正しく記述する力も確認した。日頃から地図に親しみ、いろいろな視点と地理的関心を持って学習することを求めたい。	人口密度や県庁所在地など主要都市の位置関係を含めた応用問題では、正答率が低いものとなった。一方、正答率が比較的高い基本的問題では確実に得点する力が基礎力の充実が必要である。日頃から正確な記述力と読み取る力の重要性を意識して学習することが必要であろう。
	問2	59%	67%		
	問3	31%	43%		
	問4	86%	89%		
	問5	82%	86%		
	問6	60%	71%		
	問7	74%	84%		
	問8	80%	89%		
	問9	29%	39%		
	問10	65%	74%		
	問11	42%	47%		
	問12	91%	97%		
	問13	69%	76%		
2	問1	86%	81%	基本的な知識の習得を前提として、正誤問題や並び替えの問題を出題した。基本的な語句の書き取りはもちろんのこと、問題文をしっかりと読み取って正解にたどり着けるかを出題の主眼としている。人物と語句を単純に結びつけるだけでなく、前後関係や時代区分も意識して学習したい。	解いているときは、おそらく簡単と感じるような問題もあったと思うが、問11のように条件を付け加えることで非常に難しくなる。しっかり読まないで2を選んでしまうが、内閣制度と結びつけられたかが鍵となる。問10も前提条件を正確に理解した上で並べ替えがスタートする。出来事の名前だけではなく、その時の将軍や政治の担当者などしっかりと結びつけて理解しておきたい。
	問2	68%	73%		
	問3	96%	97%		
	問4	81%	90%		
	問5	60%	73%		
	問6	45%	64%		
	問7 C	55%	63%		
	D	85%	91%		
	問8	73%	80%		
	問9	86%	94%		
	問10	16%	23%		
	問11	24%	31%		
	問12	82%	83%		
問13	45%	51%			
3	問1	99%	100%	社会的出来事に興味をもち、日頃の学習事項を結び付けて関心・意見をもつことを求めた内容とした。特に新聞という情報源を用いて活字を読み、思考することは小学生にとっても大切な学習と捉えている。	全体として予想を上回る正答率となった。日頃の基礎学習が定着していたことと判断できる。一方、問6、問10のような時事問題では、社会事象に対する日頃の大人との会話、意見交換が知識となるものであった。問9については小学生にとっては難問であったと共に漢字の間違いが重なったことによるものであった。
	問2	76%	79%		
	問3 (a)	9%	16%		
	(b)	66%	80%		
	(c)	40%	47%		
	(d)	97%	100%		
	問4	94%	97%		
	問5 (1)	82%	90%		
	(2)	70%	83%		
	問6	26%	30%		
	問7	49%	64%		
	問8	91%	94%		
	問9	0%	0%		
問10	67%	73%			
問11	86%	97%			
問12	24%	24%			

● 2024年度 中学入試 第1回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	39%	50%	顕微鏡の特徴と操作方法について、また会話文から細胞の様子をイメージすることができるか読解力を問うた。小学校理科の実験で誰もが一度は操作したことがあると思うが、レンズの性質と一つひとつの操作を関連付けて理解できているか確認した。	問1の選択肢はどれも見たことのある図だと思うが、正答率は意外にも低かった。「葉の構造は見る方向によって異なってくる」ということは当然のことではある。 問7は、顕微鏡のステージの動作によって葉の2層の細胞の上下どちらが先にピン트가合うのか気づくことができるか。 いずれも知識と実際の操作を正しく関連付けることができている受験生が多いという実態が分かった。
	問2	84%	90%		
	問3	73%	77%		
	問4	58%	70%		
	問5	73%	84%		
	問6	46%	50%		
	問7	23%	26%		
2	問1	76%	74%	太陽系の惑星の運動や地球からの見え方を問うなど、基本的な内容を出題した。問1は天体というより計算問題である。問2は惑星についての基本的な問いである。問3～問5は天体の典型的な問題であり、点数を取りたいところである。問6は問題文中に書かれていることを読めば、答えることができるが、逆行がイメージできないと答えが出ない。	問6を除くと、おおむね想定通りだったと思われる。問2～問5は、基本問題であり、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。問6は問題文をきちんと読みこなせた受験生は答えることができたのではないかと考えられる。
	問2 (1)	84%	89%		
	(2)	70%	67%		
	(3)	91%	94%		
	(4)	87%	93%		
	(5)	80%	84%		
	(6)	70%	74%		
	問3	66%	81%		
	問4	80%	84%		
	問5	47%	60%		
問6	25%	31%			
3	問1	10%	14%	物質が酸素と結びつくことを酸化というが、金属の酸化物にはどんなものがあるだろうか。酸化の前後で酸化物の重さはどのように変化するのだろうか。また、このような化学変化をするとき、規則性があるのだろうか。これらについて、基本的な知識が身についているか、与えられた情報から、量的な計算が出来るかどうかを問う問題である。	化学反応(酸化)について、問うている。問1は予想より出来ていなかった。実際に行ったことのない実験上の注意点を問うているが、受験生には難しかったようだ。問4以降では、「原子」の概念はないかもしれないが、問題文をきちんと読解できた受験生は解けていたと思われる。
	問2	99%	100%		
	問3	62%	83%		
	問4	66%	76%		
	問5	35%	53%		
	問6	48%	59%		
4	問1 a	70%	79%	静電気に関する問題。静電気の引き合う力と反発し合う力のバランスから、物質内の電気の偏りとその結果としての物体の振る舞いを考察させることをねらいとしている。	問題の表や具体的な現象例から、考察が可能なものであったが、2つの要素を同時に考察する必要のある問題で、正答率が二分した。
	b	75%	80%		
	問2	34%	43%		
	問3	40%	53%		
	問4	22%	29%		
	問5	47%	57%		
問6	57%	69%			

● 2024 年度 中学入試 第 2 回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問 1 ア	56.1%	68.0%	入試問題では頻出テーマの科学論から出題した。受験生の力を多角的に見るため、語彙を問う問題、部分的な読解力を問う問題、表現の意図や筆者の主張を問う問題など、さまざまな問題を出題した。	慣用句やことわざなどはよく対策できているためか問6の正答率は予想よりも高くなった。一方で少し問い方にひねりを加えたり傍線近辺だけで答えられないような表現に関する問題は正答率が低めとなった。本文・設問文ともに書いてあることの要旨をきちんと理解して解くのを心がけてほしい。
	イ	77.5%	85.5%		
	問 2	74.6%	85.5%		
	問 3	90.5%	96.2%		
	問 4	11.5%	18.3%		
	問 5	63.0%	74.8%		
	問 6	89.9%	93.7%		
	問 7	32.7%	39.2%		
2	問 1	57.1%	57.4%	まもなく中学生になる少年の心理心情、周りの大人たちの微妙な人間関係が描かれた小説である。これら登場人物の機微を読み取ることがまず求められる。また、小説の構造や展開についても問うてみた。戦争中の人間の姿というのも小説から学んでほしいことの一つである。	傍線部の説明を求める問題で、本文中に根拠となる事柄がはっきりと書かれていないものについては、できた人とできない人の差がついた。このような問題では本文を読む力に加えて、選択肢の説明を適切に読解し、出題者の意図をくみ取る力が試される。問題集や過去問を解く際は、○×をつけるだけではなく、なぜその答えが正解になるのかという理由まで復習するとよいだろう。
	問 2	39.6%	51.0%		
	問 3	21.5%	24.3%		
	問 4	93.0%	96.6%		
	問 5	39.6%	46.9%		
	問 6	89.7%	94.2%		
	問 7	69.2%	80.4%		
	問 8	25.3%	32.4%		
3	問 1 C	10.0%	13.4%	受験者のレベルを高めに見定め、やや中学受験生にはなじみのないテーマの詩を出題した。	本校入試の韻文では表現技法が比較的正確しやすい問題のため、あまり準備して臨まない受験生が多かったのか問1は1割ほどの正答率となった。行間が多く文脈での意味判断がしにくい韻文こそ、表現の意図や一つ一つの語彙のニュアンスを正確に捉えることが望ましい。
	問 2 A	93.3%	95.0%		
	問 3 B	63.8%	71.2%		
	問 4 B	28.5%	33.3%		
	問 5 B	50.1%	59.9%		
4	問 1 1	81.0%	86.3%	ことばの誤用を問うことをねらいとした。普段何気なく用いていることばにはそれぞれ意味がある。その内容を感じながらことばを用いてもらいたいと思いで出題した。	馴染みのあることばとそうではないことばで正答率に差があったかと思う。学習の際に辞書等を用いながら語彙力を高めてもらいたい。
	2	91.5%	94.9%		
	3	89.5%	91.1%		
	4	65.2%	71.2%		
	5	92.6%	95.5%		
	問 2 I	22.4%	29.4%		
	II	48.3%	54.7%		
	III	38.8%	46.3%		
	IV	9.7%	14.3%		
	V	19.1%	24.9%		

● 2024 年度 中学入試 第 2 回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問 1	90%	95%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算、速さ、数の性質、図形(平面・立体)の計量を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。	問5と問7以外の問題は基本的な問題で解きやすい問題が多かったせいか、全体的に高い得点率であった。問5の規則性の問題は、場合分けが発見できないため、また問7の角度の問題は補助線を引くことができなかつたため、ともに得点率が他の問題より低かつた。
	問 2	86%	93%		
	問 3	95%	99%		
	問 4	78%	84%		
	問 5	58%	73%		
	問 6	87%	95%		
	問 7	26%	33%		
	問 8	90%	94%		
2	問 1	83%	93%	本校では特徴的な平面図形と面積比を絡めた標準的な問題である。問1は補助線を引き、底辺の比から三角形の面積比を求める基本問題。問2は問1の結果を利用し、線分比から三角形の面積比を求める問題である。	問1は補助線を引き、底辺の比から面積比を求める基本的な問題であり、得点率は高かつた。問2は問1を利用し、底辺の比から進めていき三角形の面積比を求めていく問題で、最初の段階での線分の比が求められず、予想より低い得点率となつた。
	問 2	17%	27%		
3	問 1	70%	87%	場合の数と特殊算をモチーフにした融合問題。問1はそれぞれのグループでの試合数を求め、試合数を求めていく場合の数の問題。問2はグループごとの参加した人数の比と、試合数の合計から参加人数の合計を問う特殊算の問題である。	問1は場合の数の基本問題であり、得点率は高かつた。問2はグループごとの参加した人数の比からグループの数の比を適切に求められず、予想より低い得点率となつた。
	問 2	45%	67%		
4	問 1	74%	88%	小さい立方体を組み合わせた立体を切断したとき、切断された小さい立方体の個数を求める問題。切つた後の、正しい上から見た図を理解させ、段ごとで考えて解く思考力の高い問題である。	問1は切断したときの段ごとの上から見た図が考えやすく、得点率は高かつた。問2と問3は逆に考えにくく、上から見た図を適切に理解していないと、解けない問題であつたため、正確に解ける受験生は少なく、得点率は低かつた。
	問 2	18%	31%		
	問 3	23%	36%		
5	問 1	69%	78%	条件に合う数を小さい順に並べていく場合の数の問題である。それぞれの位の数について場合の数を正しく求め、1桁の整数の個数、2桁の整数の個数と順に導き、正しく計算で求められるかがポイントとなる問題である。	問1は一の位の数と十の位の数の場合の数を正しく求められており、得点率は高かつた。問2と問3は問1と基本的な考え方は同じだが、場合分けの量が多いため、残り時間で解くのが難しく、50%より低い得点率となつた。
	問 2	37%	56%		
	問 3	31%	50%		

● 2024年度 中学入試 第3回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	22%	34%	一見主張型の文章のように思えるが、実際には承認の仕組みについて述べた説明型の文章。丁寧に読めば難しい内容ではないが、「〇〇の承認」という言葉を複数定義しており、読んでいて混乱しやすい。昨今の情報処理能力を問うような出題傾向を意識して文章・問題を設定した。	内容として難しい文章ではないので、設問を解答する論拠となる範囲を限定しやすい問題(問3)は得点率も高かった。一方で、問1文挿入や、問4文章構成に関わる問題は得点率が低かった。受験者には、俯瞰して文章全体を捉えることも意識してほしい。
	問2	49%	65%		
	問3	75%	89%		
	問4	39%	54%		
	問5	53%	73%		
	問6	39%	54%		
	問7	31%	31%		
	問8	84%	88%		
	2	69%	80%		
	3	67%	79%		
	4	24%	29%		
2	問1	55%	63%	平均的な難易度の文章を使用し、登場人物の心情の変化を物語の時間の流れに沿って把握できるかどうかを試した。物語を読むにあたって、何がきっかけになって、どのように心情が変化したのかをしっかりと理解してほしい。	出題のねらいにも記したように、登場人物の心情が何がきっかけになってどのように変化したのかを問うた。選択肢の中で少しまぎらわしい文章を出す、ひっかかってしまう人が多かったので、限られた時間内ではあるが、丁寧に読むことを意識してほしい。その他、語彙力ももう少しつけてほしいと感じた。
	ア	74%	88%		
	イ	76%	84%		
	問2	63%	69%		
	問3	49%	64%		
	問4	44%	55%		
	問5	42%	50%		
	問6	64%	65%		
	問7	50%	56%		
問8	48%	56%			
3	問1	54%	71%	日常生活でのひとこまを描写した詩の情景を想像し、そこに込められた作者の想いを読み取る問題。まずは詩の中で描かれている内容を正確に読み取ることができるか基礎力を試した。次に表現技法に注目して、そこに込められている作者の想いを読み取れるかを問うた。さらに題名である「何処へ」を含めて詩全体からテーマを読み取れるかを応用問題として出題した。	どの設問も極端に得点率が高い(低い)ものはなく、全受験生と合格者の得点率差も大きくは開かなかった。最も差がひらいたのは問1である。今回は出題形式に若干ひねりがあったものの、問われていたことは従来の表現技法と大差ない。表面に惑わされず、何を問われているか判断し解答することが肝要である。
	問2	70%	76%		
	問3	69%	75%		
	問4	39%	51%		
	問5	53%	64%		
4	問1	86%	90%	オーソドックスな漢字の書き取りと、時事問題と言語文化に関する知識を絡めた問題を出題した。	漢字の書き取りはどれもよく書けていた。将棋由来の言葉に関しては受験生全体と合格者の間で大きく差が開いた。日頃から漢字の成り立ちや言葉の由来など、国語的な知識に関するアンテナを広げておくことが必要となるだろう。
	1	93%	98%		
	2	87%	91%		
	3	95%	94%		
	4	91%	90%		
	問2	71%	76%		
	1	59%	65%		
	2	45%	66%		
	3	30%	49%		
4	28%	48%			

● 2024年度 中学入試 第3回・グローバル 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	97%	98%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認める小問集合。四則演算、単位換算、年令算、食塩水の濃度、3進法、素因数分解、図形(平面・立体)を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	問8は難易度に対して得点率は低く、1番多かった間違い方は、真っすぐな線でかくべきところを、折れ線でかいてしまうパターンであった。その他の小問については概ね予想通りの得点率であった。
	問2	76%	86%		
	問3	86%	89%		
	問4	88%	93%		
	問5	48%	63%		
	問6	61%	83%		
	問7	89%	98%		
	問8	29%	44%		
2	問1	95%	100%	本校では特徴的な平面図形と比を絡めた標準的な問題である。問1、問2は相似比、問3が面積比を利用して線分比を考える問題である。面積比については苦手とする受験生が多く、問3はこの大問の1番重要な問題である。	問1、問2は過去問演習している受験生にとっては易しい問題であり、しっかり得点しておきたい。また問3の得点率をみると、面積比を利用して線分比を求めることができない受験生が多いことが分かる。この問3を得点できるだけの平面図形への理解があると合格へ大きく近づくことができるだろう。
	問2	88%	99%		
	問3	20%	38%		
3	問1	23%	34%	条件をみたら大福と最中の買い方について問う問題であった。計算力はもちろんのこと、代金の計算をしていくなかで、条件をみたらどうかをすばやく判断する力が求められる。	問1は代金が最も高くなる場合と低くなる場合を押さえることができれば難しくはないが、すべての場合の数を書こうとすると大変であり、得点率の低さにつながったと思われる。
	問2	19%	43%		
4	問1	80%	95%	鉄道の運賃を題材に、特殊算を用いる問題であった。団体割引の利用や途中で降りてから再び乗車するなど、状況によって払う運賃が変わることに関して、どれだけ対応できるかをみる問題であった。	問1から問3まで得点率は高く、よく解答できていた。このような得点しやすい大問を逃さないためにも、本番の試験での時間配分についてはよく考えておきたい。
	問2	57%	74%		
	問3	42%	66%		
5	問1	8%	18%	さいころをたおしていく中で、上を向く目が何かを把握する空間認知力と、「1が上を向いているとき、次に上を向く可能性がある目は何かをかきだしてみると…」といった情報整理ができるかを問う問題であった。	難易度が高いこともあり得点率は低く、差があまりでなかった大問といえる。しかし空間認知力と情報整理する力を高めることできる良い問題のため、本番がこれからの受験生にはぜひ解いてもらいたい1題である。
	問2	1%	4%		

● 2024年度 中学入試 第3回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 (1) A	99%	100%	日本国内の地理に関して、国内全般を見渡して考察する、地方の特徴への理解を計る、都市問題への理解を計る、以上3つの点を意識して出題した。学習事項を正しく理解できているかを確認する問いを中心に据えたが、図表から推察する、地図を描いて考察する、時事的問題への理解を加味した問いも発展問題として出題した。	果物の生産統計や地形の特徴などの基本的な問題は概ね理解できている様子です。一方で標準問題・発展問題では「用語は覚えているが内容の理解については少々浅い」点や「図表の読み取りと推察が苦手」といった点が正答率の差となって表れています。学習の際には、用語だけではなく原因や理由もあわせて理解するよう意識してください。
	(1) B	90%	94%		
	(1) C	90%	93%		
	(1) D	85%	90%		
	(2) E	71%	88%		
	(2) F	76%	93%		
	問2 (1)	66%	79%		
	(2)	46%	66%		
	問3 (1)	43%	60%		
	(2)	60%	66%		
	問4 (1) A	69%	65%		
	(1) B	34%	41%		
	(2)	49%	60%		
(3)	72%	85%			
(4)	27%	34%			
2	問1 遺跡	93%	96%	先史時代から現代にいたるまでの日本史の流れを大まかに理解できているか、また時代ごとの代表的な出来事や人物、その順序などについて正確な知識や理解の度合いを見ることを目的に出題した。基本的な問題を多く出題したが、理解度を見るために選択問題には難易度の差をつけた。	基本的な問題が多かったため一般的に正答率は高かったが、並べ替えの問題や、選択肢から複数を選ぶ問題の正答率が低かった。より正確な知識や理解を深めたいところである。東京大空襲の年月日の正答率が一番低かったのは意外。原爆投下・終戦・大震災などの年月日も押さえておきたいところ。
	動物	69%	79%		
	問2	94%	97%		
	問3	80%	82%		
	問4	72%	81%		
	問5	58%	74%		
	問6	51%	65%		
	問7	60%	85%		
	問8	55%	72%		
	問9	37%	51%		
	問10	52%	71%		
	問11	58%	66%		
	問12	91%	96%		
	問13	23%	43%		
	問14	31%	43%		
問15	80%	88%			
3	問1 (1)	22%	41%	時事問題を軸に標準レベルを多く出題した。テキストや教科書に書いてあることだけの勉強ではなく、興味を持って自分で調べて知識を広げていくことを求めたい。国内外の基本的な出来事に関して、日常的にプラスαの行動が取れているかを問い、その力を試した問題が大半を占めた。	言葉は正解しているが、漢字ミスが多く、点数が伸び悩んでいるパターンが多い。難易度のAとBの問題は落としてはいけないレベルだと認識してもらいたい。問5の問題は正解率が低かったため、今後は精査が必要である。歴史の分野でも、「戦後史」は公民分野と連動する所が多いので、合わせて知識を入れてもらいたい。
	(2)	51%	59%		
	問2	15%	25%		
	問3 (1)	66%	79%		
	(2)	86%	93%		
	問4 A	18%	28%		
	B	87%	93%		
	C	99%	100%		
	D	93%	97%		
	E	89%	93%		
	F	38%	49%		
	問5	8%	15%		
	問6	49%	68%		
問7 (1)	47%	54%			
(2)	49%	66%			

● 2024年度 中学入試 第3回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	75%	78%	水にすむ生物を対象とした環境調査をテーマとした。問1は生態系の分解者に関わる知識問題。問2、3、5は課題文から実験の趣旨や設定について解釈する問題。問4は計算をとまなうデータ処理問題であった。	問4のデータ処理は、数が少ない「成城」では理解度の高さが反映された一方、数が多い「群馬」の方は遂行能力の高さゆえの点差が付いた。全体を見渡すと得点状況はよかったものの、成績上位層でもいま一つ差をつけられないでいる。例えば、実験を与えられた通りにこなすだけで条件設定を検討する体験がないと、問5などはスッと答えに結びつかないのかもしれない。
	問2	69%	82%		
	問3	63%	66%		
	問4 成城	84%	85%		
	群馬	66%	82%		
問5	70%	74%			
2	問1	78%	85%	中学で学習する天気に関する問題である。海陸風、雲の種類、前線と雲の関係、雲や霧、湿度について、小学校では扱うことはない内容ではあるが、天気に関してこのくらいの内容は理解しておく必要がある。また、露点の意味を理解し、湿度(相対湿度)は、飽和水蒸気量と実際に含まれている水蒸気の量から計算できるようにしておく必要がある。	海陸風に関してはよくできていた。また、問4を除くと、おおむね想定通りだったと思われる。問4は身近な雲について観察するとともに、形や高さで分類するという視点をもってもらいたい。問7の露点や湿度(相対湿度)は、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。
	問2	76%	85%		
	問3	95%	99%		
	問4	23%	31%		
	問5	51%	71%		
	問6	57%	76%		
問7	73%	87%			
3	問1	94%	96%	金属と酸の反応についての実験データをもとに条件を変えた場合のグラフの想定を問う問題を出題。情報を整理し、分析する力やグラフを読み取る力などをはかることをねらいとした。	おおむね想定通りだったと思われる。とくに実験の条件を変えたときのグラフを選択する問4と問6で差がついたことから今回の出題は受験生の力をはかるのに適していたと考えられる。
	問2	87%	94%		
	問3	85%	87%		
	問4	61%	79%		
	問5	68%	84%		
	問6	30%	41%		
4	問1	68%	81%	中学の実験で扱う気柱共鳴管に関する問題。小学校では扱うことはない実験器具ではあるが、文章を読み取り、知っている知識と結び付けて目的と原理を理解する力が必要である。また、発生する現象から式を立てて計算する能力も確認する。	発生する現象を理解することはまずまずできていたが、その原理を理解し、計算して解答することが難しかったようだ。自然現象に関する知識はもちろん、式を立ててそれを計算する力を身に付けてもらいたい。
	問2	44%	66%		
	問3	45%	60%		
	問4	5%	15%		
	問5	11%	24%		
	問6	15%	35%		
	問7	47%	54%		

● 2024年度 中学入試 第4回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	52.9%	68.1%	人類の進化と多様性をテーマとする文章からの出題。文字数も比較的少なく(3500字程度)読みやすい内容であったと思う。〈無機物の知的生命体〉を目指す人間こそが新たな人類になっていく、という内容は地球規模の環境の変化にも生き残っていく人類の可能性を示唆しておもしろい。	問1・問2の前後の文脈や指示語を手がかりとする脱文挿入、「～的」という形容動詞の意味を考える問題は論説文の頻出問題。問4が最も大きく得点差が生じたが「しかり(=同様)」といった語の意味が分かれば平易だったはず。また、本文中から図表空欄部にあてはまる語を探す問5は、図表の表す意味を取り違える解答が多かった。
	問2 ア	75.9%	91.5%		
	イ	81.1%	89.4%		
	問3	62.1%	76.6%		
	問4	54.3%	78.7%		
	問5	52.9%	72.3%		
	問6	33.0%	49.7%		
	問7	50.3%	55.3%		
	問8	58.7%	71.3%		
2	問1	74.4%	93.6%	昭和期の小説の語彙くらいは知っていて欲しいと考え、その時代の小説を選んで出題した。この物語は「霧」が舞台装置として働いており、その出現と消失によって登場人物の気持ちなどに影響をあたえている。この辺りに留意して本文を読めたかどうか、受験生の読解に期待したい。	他の問にも共通しているところだが、合格者と不合格者の差には語彙力の差が顕著である。まずは普段から色々な文章に目を通す癖をつけてから受験勉強に臨んで欲しい。読解では難易度の高い問ほど合格者と不合格者の正答率の差が開いている。難易度の高い問題はその傍線部付近だけでなく、文章全体の中でその傍線部がどのように解釈されるかを考えて読む必要性があった。
	問2	72.4%	83.0%		
	問3	63.1%	78.7%		
	問4	37.2%	55.3%		
	問5	58.7%	70.2%		
	問6	38.6%	53.2%		
	問7	24.1%	34.0%		
	問8	57.8%	70.2%		
	問9	22.7%	42.6%		
3	問1	50.3%	70.2%	百人一首からの出題で、現代語訳が全てある中で、和歌で使われている古語と照らし合わせ、歌に詠まれる世界を具体的なイメージとして捉えられているかを問う。自然の様々な風景と心情との重なりを意識して詠めているかがポイント。	概ね大きなずれなくよみとれていたと思われる。抽象的な表現を具体的な表現に置き換える問題に合格者、不合格者の大きな差がみられた。語彙力もさることながら具体的なイメージが言葉といかにつながるかがポイントと言える。
	問2	85.8%	91.5%		
	問3	86.6%	97.9%		
	問4	71.8%	85.1%		
	問5	69.7%	85.1%		
4	問1 1	86.3%	97.9%	第1回と同じ趣旨。漢字を効率よく勉強するために、部首の由来や意味はぜひ勉強しておいてほしい。	部首の問題というよりは、例文にふさわしい語彙を知っているかどうか問われたかもしれない。いずれにしても語彙力の有無が出来を左右している。
	2	91.3%	100.0%		
	3	75.6%	87.2%		
	4	61.6%	80.9%		
	5	77.6%	89.4%		
	問2 1	14.0%	17.0%		
	2	26.5%	42.6%		
	3	1.7%	2.1%		
	4	14.2%	25.5%		
	5	0.6%	0.0%		

● 2024年度 中学入試 第4回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	83%	89%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認める小問集合。四則演算、単位換算、特殊算、速さ、数の性質、図形(平面・立体)の計量、場合の数を出题した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問8の場合の数の問題は、状況を正しく把握し、理由を説明する力を見るねらいがあった。	大問1の受験生全体の得点率は比較的高く、多くの受験生がここで得点を伸ばした。問6の図形(平面)の計量の問題は差が出る問題であった。また問8の場合の数の問題は説明の部分で本質を突くことが困難なため得点率が他の問題より低かった。
	問2	85%	98%		
	問3	82%	85%		
	問4	96%	100%		
	問5	86%	94%		
	問6	78%	96%		
	問7	83%	94%		
	問8	9%	13%		
2	問1	62%	83%	直角三角形を、とある点を中心として回転させる問題であった。図に必要な補助線を書き込み、式にしてからうまく計算できるかを問うねらいがあった。	基本的な、図形が動いたあとの長さや面積を考える問題であったが、思いのほか受験生全体の得点率は低かった。比や面積を求めるときに計算の工夫が必要だがそこができていない受験生が多かった。
	問2	60%	87%		
	問3	56%	81%		
3	問1	82%	96%	数量(歩数)に関する問題であった。この問題を通して、逆比に関する理解があるか、そして問題の状況からその結果を次の問2で活用できるかをみるねらいであった。	問2について、A君がB君に追いついたということは、2人は同じ距離を歩いたということに意識が向けば、そう難しくはない。進んだ距離の比は速さの比に等しいことを利用してそれぞれの歩数の比を求めることができている受験生が多かった。
	問2	25%	47%		
4	問1	66%	98%	立体をいくつかの平面で切り分ける問題であった。問1は基本的な体積の求め方を問う問題で、問2は比の扱い方をみるねらいであった。それぞれの問題で、体積を求めたい立体の形を考える、空間認知能力が必要である。	問1は立方体から三角すいを4つ切り取った正四面体で、問2はその立体から体積比が1/8の正四面体を4つ切り取った正八面体であることに気づくことができれば簡単に解ける問題であったが、特に問2は気づくことができた受験生は少なかった。合否を分けた大問であった。
	問2	31%	66%		
5	問1	75%	87%	整数の問題である。長い文章を読み、必要な情報を抜き取り、式にする力が必要である。問1と問2は易しい問題であり、これらは落とせない。問3は2組の数の差をとり、最大公約数の問題に落とし込むことが必要であるが、難易度は高い。	最後の大きな大問で時間があまりない中であったが、落ち着いて問題文を読み、解答ができている受験生は想定より多かった。問3に関しては、少々複雑な問題であったがこちらも想定を上回る得点率であった。
	問2	71%	89%		
	問3	22%	47%		

● 2024年度 中学入試 第4回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 1	90%	96%	日本の世界自然遺産を題材として、地理全般にかかわる出題をした。資料の読み取り問題について、熱帯気候の判別は習っていない分野であるが、資料と文章の整合性を取る解答を導くことができるかを確認した。	資料の読み取りは想定していた以上に正答率が高かった。資料読み取り問題では、与えられた資料の意味を考え、自ら文章化することが重要であるが、多くの受験生が出来ていたと考えられる。
	2	99%	100%		
	3	10%	19%		
	4	79%	94%		
	問2	84%	94%		
	問3	90%	98%		
	問4	73%	87%		
	問5	83%	89%		
	問6	91%	94%		
	問7 (1)	59%	72%		
	(2)	75%	94%		
	問8	45%	57%		
	問9	97%	98%		
問10	38%	55%			
2	問1	77%	81%	古代から現代までの基本的な人物、出来事などをしっかり学習できるかを確認した。教科書レベルの出来事の意義、因果関係、人物の動きなどを大づかみに理解しているかを出題した。	全体的に基礎基本をしっかり学習し、本校の過去問もよく研究しているという印象である。漢字での解答が求められる設問の正解率が高かったのは、丁寧な学習を行ってきた受験生が多かったことをあらわしている。一方で問2の不正解などに見られた正確な漢字で書くことができないといった状況が合否を分けたと思われる。
	問2	57%	83%		
	問3 (1)	68%	79%		
	(2)	94%	96%		
	(3)	93%	96%		
	問4	54%	66%		
	問5	91%	98%		
	問6 (1)	93%	100%		
	(2)	81%	79%		
	問7 (1)	85%	98%		
	(2)	76%	91%		
	(3)	87%	96%		
	問8 (1)	85%	98%		
	(2)	82%	87%		
	問9	81%	91%		
	問10 (1)	99%	100%		
(2)	33%	36%			
問11 (1)	82%	89%			
(2)	72%	85%			
(3)	61%	68%			
3	問1	87%	100%	2023年に起きた出来事を年表形式にして出題した。毎年、公民分野では時事問題を多く出題している。時事問題に絡めて公民分野の基本事項を理解しているかを出題のねらいとした。常日頃から国内、国外の出来事に興味・関心を持ってほしい。	全体的に基本的事項についてはよく出来ている。正答率が低めであった、問5や問6は地理的な知識が必要とされるものであり、受験者平均と合格者平均の差が出た問題であった。歴史・公民分野であっても地理的感覚を常に持ってほしい。
	問2	90%	96%		
	問3	95%	100%		
	問4	48%	66%		
	問5	48%	62%		
	問6	40%	43%		
	問7	43%	47%		
	問8	58%	66%		
	問9	34%	45%		
	問10	92%	98%		
	問11	43%	66%		
	問12	49%	53%		
	問13	59%	66%		

● 2024年度 中学入試 第4回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	51%	72%	ヒトのからだをテーマとした。問1は眼に関する知識問題。問2は筋肉に関する知識問題。問3～5は消化と栄養素に関する知識問題。問6は血液量を求める計算問題であった。	問3は知識が細かく難易度が高い解きにくかったであろう。それ以外は知識問題も良く出来ている。計算問題も文章をしっかりと理解してできていた。
	問2	71%	70%		
	問3	50%	55%		
	問4	66%	83%		
	問5	85%	94%		
	問6	41%	70%		
2	問1	81%	91%	川のようにすや地層・化石を問うなど、基本的な内容を出題した。問1、問2、問4は川のようにすについての基本的な問いである。問3は川の流速が場所によって異なることを知らないと思えるのが難しいと思うが、川の流れのようすをイメージできれば、答えることが可能である。問5～問8は地層・化石の典型的な問題であり、点数を取りたいところである。問9はニュースにもなったので知っている人が多かったのではないかと考えられる。	問3を除くと、おおむね想定通りだったと思われる。問1、問2、問4～問8は、基本問題であり、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。問3を知識ではなく、川の流れのようすをイメージして解くことができることよい。問9のようなニュースになった科学的な話題についても興味・関心をもってほしい。
	問2	82%	89%		
	問3	23%	19%		
	問4	99%	100%		
	問5	83%	96%		
	問6	50%	64%		
	問7	57%	77%		
	問8	68%	70%		
	問9	36%	57%		
3	問1	60%	74%	合金を扱った問題である。文章やデータの読み取りから、合金の種類を推測を行う問題や、また、その合金に含まれる金属と酸の反応で発生する気体量のデータから計算をする問題を扱った。計算問題はデータを読み取り、比の計算ができること、また煩雑な計算問題にも対応できる計算力をもっているかを問うた問題である。	問1の合金の推測や、問2、問3のシンプルなデータの読み取りと比の計算に関しては、もう少し高い正答率になることを期待していた。問4～問6は計算が煩雑であったため、正答率は下がった。しかし、近い解答にたどり着いている受験生も多かったため、基本的なデータの読み取りや比の計算は身につけている受験生が多かったように感じる。それに加えて、問題を最後まで解き切る計算力も理系教科には必要であるため身につけてほしい。
	問2	69%	74%		
	問3	63%	77%		
	問4	40%	62%		
	問5	11%	19%		
	問6	4%	15%		
4	問1	79%	89%	密度と浮力についての基本から応用までの内容を問うようにした。問1、問2は基本的な設問となっていて確実に得点を取りたいところである。問3は物体の密度と液体の密度の違いを見抜く必要がある。問4は上記に加えて力のつりあいの関係を、問5はどのような条件のときに物体が浮かぶのか考察できたかを試した。	問1、問2は非常によくできている。問3の得点率は当初の想定よりも低く、重力と浮力がつりあいの関係になっていることに気がつかなかったか、あるいは液体中の物体の体積を間違えたと推測する。問4、問5は想定よりもよくできていた。日頃の勉強の成果が出たものと判断する。
	問2	78%	94%		
	問3 (1)	53%	74%		
	(2)	44%	70%		
	問4 (1)	73%	87%		
	(2)	71%	87%		
	問5	60%	74%		

● 2024年度 中学入試 帰国生 AB方式 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	34.9%	44.4%	非凡教育がクローズアップされることが多い世の中だが、最近では平凡教育の重要性が見直され始めてきている。ものごとを多角的な視点で見てもらいたいと考え、この文章を選定した。	知識問題は正答率が高く、しっかりと理解していた。一方で抽象的な内容に対しての問題は正答率が低かった。読解しきれていない箇所を解釈できるまで味わうような試みも学習には必要である。
	問2	87.7%	97.4%		
	問3	74.5%	80.3%		
	問4	69.8%	82.1%		
	問5	69.8%	76.9%		
	問6	65.1%	72.6%		
	問7	44.7%	52.1%		
	問8	57.0%	74.4%		
	問9	22.7%	30.5%		
	問10 (1)	44.3%	59.8%		
	(2)	56.6%	65.0%		
2	問1 ア	27.2%	26.5%	身分制度が色濃く残る時代から近代的な人間関係へと移行する社会で、人格形成期の主人公が経験した出来事を通じてどのような心情を抱くのかをていねいに読み取る力を試した出題。あわせて、それぞれの登場人物についての描写から、性格や人物同士の間関係が読み取れるかを問うた。さらに、やや長い字数で心情を説明する記述問題も出題し、表現力を試した。	語彙力で差がつく問題が散見された。全体としては平易な文章だが、多少難しい語句も含まれている。その場合、前後の状況や登場人物の性格などを踏まえて類推することも必要。問3から問6までは登場人物の性格を踏まえたうえで人間関係を考慮して解答する必要がある。心情や性格を描写した部分に注目して読む習慣をつけたい。記述問題は字数から類推し、二つのポイントがあることに気づいてほしかった。
	イ	35.7%	39.3%		
	問2	66.8%	73.5%		
	問3	4.7%	8.5%		
	問4	81.3%	93.2%		
	問5	70.6%	76.1%		
	問6	63.4%	56.4%		
	問7	85.5%	91.5%		
	問8	18.4%	25.8%		
	問9 (1)	34.0%	41.0%		
	(2)	31.9%	38.5%		
(3)	20.9%	24.8%			
3	問1	53.2%	68.4%	描かれている内容から情景を想像しながら現代詩を読み、技法に注目しながら表現効果を考えることができるかを問うている。詩を読む際に表現技法に注目するのは、そこに作者の想いが強く表れるからだ。まずは代表的な技法の種類とその具体例をおさえておきたい。詩が苦手という声をよく聞くが、必要な知識を得たうえで、情景を想像しながら読むことを心がけてほしい。	描かれている内容を確認する問1・問2・問4で差がついた。やや技巧的な表現ではあるが、少女がなわとびをしている情景を具体的に想像すれば解答は容易なはず。問5は表現技法の基礎知識があればよい。問3はなわとびを人生になぞらえている点を問う応用問題で、正答率は低く差がつきにくい問題であった。
	問2	64.3%	77.8%		
	問3	18.7%	18.8%		
	問4	33.2%	41.9%		
	問5	36.6%	41.9%		
4	問1 1	43.8%	51.3%	日常使われている日本語の語彙力(正確性)を問うべく出題した。普段から活字を読み、またその中で「ことば」に対してしっかりと意識を持っているかどうか問われていた。	全受験生と合格者の得点率の差が最もついたのが、この大問であった。その中で条件をよく読んでいないのではないかと思える誤答も多く見られた。問2-1を「焼け石に水」と答えていたのはその一つの例である。入試を受けるにあたっては反射的に解くのではなく、しっかりと読み込んで解く癖をつけて欲しい。
	2	66.0%	75.2%		
	3	77.9%	89.7%		
	4	43.8%	54.7%		
	5	55.7%	70.9%		
	問2 1	14.9%	21.4%		
	2	60.4%	76.1%		
	3	69.4%	81.2%		
	4	54.9%	62.4%		
	5	40.4%	51.3%		

● 2024 年度 中学入試 帰国生 AB 方式 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問 1	94%	97%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3～6は特殊算を幅広い分野から、問7・8は図形の問題を出題した。	基本的な計算は例年と変わらない得点率であったが、問6の場合の数に関する問題については、不慣れな問題であったが、想定よりも低い得点率となった。立体図形の計量については、正確に計算する力がやや足りていないように感じた。
	問 2	87%	96%		
	問 3	71%	85%		
	問 4	68%	93%		
	問 5	83%	93%		
	問 6	40%	66%		
	問 7	65%	84%		
	問 8	57%	83%		
2	問 1	93%	96%	速さの問題。基本的な問題ではあるが、問題の状況をしっかりと把握し、丁寧に考えていく必要がある。グラフなども活用し、状況を整理することがポイントとなる。	問1・2は基本的な問題であり、問題の内容も頻出のタイプであるため、よくできていたと感じる。問3は、走ることに休むことを繰り返す問題のため、状況を整理することが重要で、ダイヤグラムなどを活用し丁寧に解くことが必要であったが得点率は低くなった。
	問 2	73%	87%		
	問 3	25%	42%		
3	問 1	76%	93%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題であり、正方形を題材とした。問1は辺の比、問2・3は面積を求める問題である。辺の比を利用して、面積計算をするという、図形に関する性質を受験生に求めた。	本校では頻出となる平面図形と比の問題であったため、よくできていた。合格者平均と受験者平均の差が大きいため、しっかりと練習して確実に得点できることが合否を分ける問題となった様子である。
	問 2	69%	92%		
	問 3	60%	86%		
4	問 1	89%	92%	球をやり取りする中で、具体的な実験的操作を通じて、数の規則性を見抜き、的確に計算で処理をすることを問う問題であった。具体的な操作を地道に繰り返せることが解決の糸口となる問題であった。	球のやり取りが進むにつれて、どのように増減するかを具体的に操作していく中で読み取ることがポイントになる問題であったが、ルールをしっかりと把握できないため、考えが進まないような受験生も多かった様子である。
	問 2	28%	46%		
5	問 1	59%	83%	立方体の切断とそれに伴う体積の問題。図形の切断についての基本的な理解が来ているか。それに伴う体積の計算を正確にできるかを問う問題であった。	立方体の切断についての問題。問1の長さを求める問題で難易度は高くしていないが、想定よりも低い得点率となった。しっかりと問題を把握することができていなかったことに要因があるようである。問2はやや難易度を高く設定した問題であったが、想定よりも得点率は高くなった。
	問 2	32%	55%		

● 2024年度 中学入試 帰国生 A方式 英語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	Q1	38%	40%	英検準1級レベルの語句を正しく理解できるかを問うた。中には抽象的な表現も出題がなされた。熟語に関してはやや難解なものも今回は出題がされた。後半の3題は単語が正しく綴れるかを問うた。	例年通り後半は単語を綴る問題を出題しているが正確性がまだ足りないと感じた。一方で準1級標準レベルの語句は良くできていると言える。抽象性が伴う語句は中学入学後は更に必要性が増すので今後も取り組んでもらいたい。
	Q2	42%	47%		
	Q3	55%	73%		
	Q4	36%	30%		
	Q5	86%	97%		
	Q6	14%	7%		
	Q7	78%	90%		
	Q8	18%	23%		
	Q9	59%	67%		
	Q10	59%	83%		
2	(1)	18%	10%	複数人によるやり取りが続くやや長めの英会話の文を読み、その内容を正しく理解した上で、選択肢から空所を埋める作業により全体を要約させる問題である。受験生の英語読解力と論理性を伴った思考ができるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率は相関性があると考えられる。可否の差は主に英語理解力の差と判断できるが、(1)は選択肢の字面(じづら)のみ見れば間違える問題。(2)はsave:節約になる、という本文中の意味をしっかりと取れなければ正解できない問題。深く考えずに何となく解答した受験生が多かったと考えられる。
	(2)	38%	37%		
	(3)	23%	30%		
	(4)	72%	83%		
	(5)	53%	60%		
	(6)	46%	53%		
	(7)	41%	47%		
	(8)	74%	83%		
	(9)	80%	97%		
	(10)	53%	70%		
3	Q1	30%	37%	英文を文構造を考えながら論理的に整序できるかを問うた。レベルは全て大学入試レベルに相当するが全て英検2級レベルの問題と言える。また基本的な語句が理解できているかを問う問題も出題した。	概ね良好と言える。しかしまだ語句を問われる問題でやや差がみられる。大学入試レベルではやはり語句を聞かれる問いは少なく、粘り強く覚えていく必要がある。文構造を理解して整序する問題は良い出来と言える。
	Q2	51%	73%		
	Q3	65%	78%		
	Q4	86%	93%		
	Q5	87%	93%		
4	Q1	55%	70%	会話内容と幸福感の相関関係を検証する内容の文章読解問題。内向的な性格の人と外交的な人との比較を交えての文章構成になっており、それぞれのタイプの傾向と、どういう場面においてはどの会話内容が友好的に感じられるかなどを、整理しながら読むことが要求される。	総じて整理しながら理解できていたようであった。ただ、Q3の本文の内容と「異なる」ものを選ぶ問題に関しては正答率が低い結果となった。設問文の内容を取り違えたか、本文中の一見似たような文章内容の違いを識別できなかったなどの理由が考えられる。内容比較問題の場合、どのような条件で同じあるいは異なる結果が出たのかなど、自分自身で工夫しつつ整理しながら読むことが必要である。
	Q2	53%	67%		
	Q3	31%	27%		
	Q4	47%	60%		
	Q5	51%	67%		
5	Q1	54%	59%	物語文を素材に、主に日本語での記述問題(和訳・説明問題)を通して、英語の読解力だけでなく、読み取った内容を日本語で表現する力も測った。長文中の語彙レベルはそれほど高くないものの、話の流れをしっかりと理解した上で日本語での的確に記述できるかが鍵となる。	本文内の使用語句は比較的平易だったものの、語数が昨年より若干増え、単純な日本語訳だけでなく、話の流れをふまえて日本語でまとめる問題もあったためか、正答率は想定よりも低かった。わからない語句の意味を類推しながら話の筋を追うのはもちろんのこと、細かい点まで丁寧に読む習慣をつけてほしい。
	Q2	48%	57%		
	Q3 (a)	36%	42%		
	(b)	36%	48%		
	Q4	42%	63%		

● 2024 年度 中学入試 帰国生 B 方式 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問 1 (1)	48%	65%	地理分野と歴史分野からの出題。都道府県庁所在地や歴史用語の書き取りや、各時代の特徴の正誤問題、時代順の並べ替えなど、基本問題の知識の確認や、複数の知識を組み合わせるような構成にした。	正誤問題は、3つの文の正誤判定をしなくてはならないため、差が広がったといえる。時間的な制約が大きいので、入っている知識を正しく読み取る力が必要である。都道府県庁所在地や、歴史用語の書き取りは、誤字が目立った。もったいないミスは普段から気をつけておきたい。
	(2)	69%	81%		
	(3)	78%	91%		
	問 2 (1)	84%	94%		
	(2)	73%	87%		
	問 3 (1)	41%	57%		
	(2)	78%	93%		
	問 4 (1)	49%	60%		
	(2)	82%	96%		
	問 5	33%	46%		
	問 6 (1)	54%	69%		
	(2)	58%	68%		
	(3)	55%	72%		
	問 7	52%	75%		
2	問 1	92%	97%	近現代分野と公民分野からの出題。政治分野の基本事項だけでなく、経済分野から(昨今の円安の状況)も出題し、時事的な要素を含め形にした。	近現代分野の並べ替え問題は、事実の羅列だけにとどめてしまうとなかなか難しい。必ず対になる出来事があるので与えられている選択肢以外のできごとを入れつつ考えていきたい。設問によっては、過去問と似たような形式のものもあるため、しっかりと正解したい。
	問 2	83%	93%		
	問 3	21%	28%		
	問 4	41%	66%		
	問 5	84%	94%		
	問 6 (1)	28%	35%		
	(2)	70%	88%		
	問 7	87%	96%		
	問 8	78%	87%		
	問 9	50%	60%		
	問 10 (1)	81%	94%		
(2)	29%	46%			

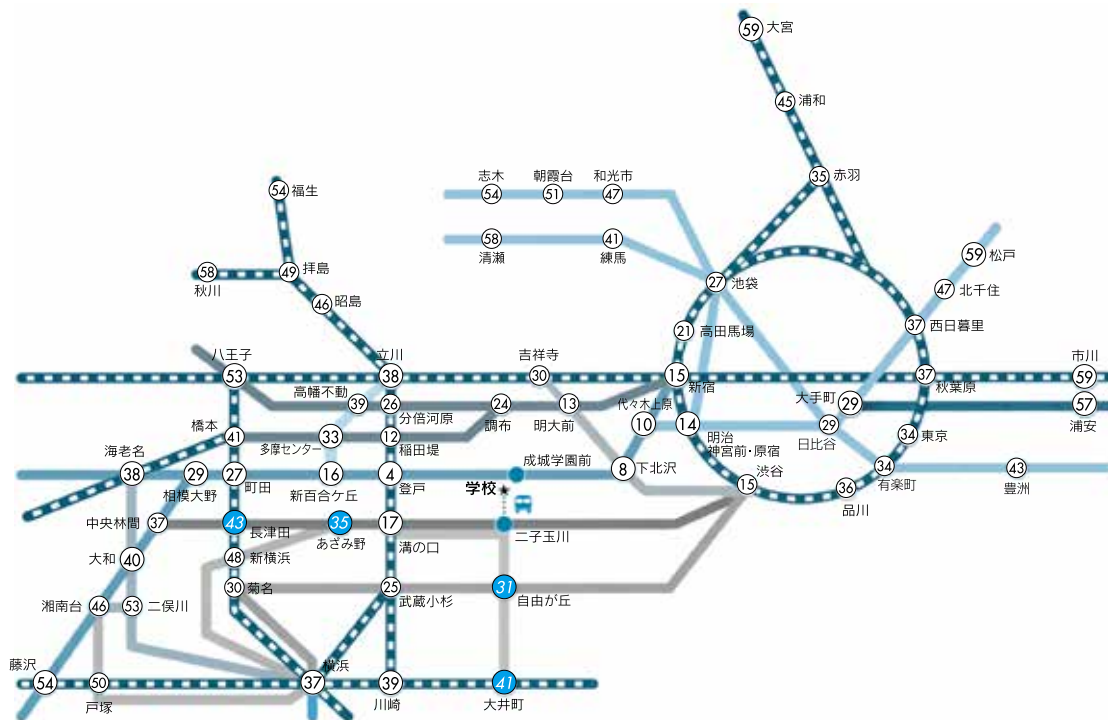
● 2024年度 中学入試 帰国生 B方式 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	85%	97%	昆虫の体のつくりと行動習性をとりあげて出題した。問1・2は食性と昆虫の口のつくりにかかわる知識問題。問3・4は親が子を保護する習性と若齢期の生存率とのかかわりを示した生存曲線のグラフの読み取りと解釈の問題。問5は生存競争の力の強さによって生息域がいかにすみ分けられるか予想する考察問題。	全般的に正答率は良好とあってよく、気持ちよく解けた受験生は多かったであろう。問1は複数の動物につき、すべて正答でないことと得点できないことからやや点差が付いた。問3と問5、とりわけ後者は図やグラフを前に、どれだけ解釈の力を発揮できたか、差が付いた。
	問2	90%	99%		
	問3	58%	70%		
	問4	41%	51%		
	問5	67%	85%		
2	問1	34%	48%	星や星座の性質、星の見え方、星の明るさを問うなど、基本的なことから応用までの内容を出題した。問1～問4は基本的な問いで点数を取りたいところである。問5は実際に星空を眺めたり、プラネタリウムの投影を見たりしていると答えを出すことが容易である。問6は問2～問4の応用で、南半球の星空がイメージできないと答えが出ない。問7、問8は問題文中に書かれていることを読めば、答えることができる。	問1は複数回答のため、問4は星の運動がイメージできていないため、得点率がやや低かった。問2は7割を超える得点率となっていて、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。問5については出題の意図がわからない受験生が見受けられ、得点率が低かった。問6は星の観察を南半球へ視点を移動して考えなければならぬため、難易度が高かった。問7、問8は問題文をきちんと読みこなせた受験生は答えることができたのではないかと考えられる。
	問2	67%	76%		
	問3	36%	57%		
	問4	38%	45%		
	問5	14%	19%		
	問6	30%	36%		
	問7	50%	58%		
	問8	41%	63%		
3	問1	80%	96%	過酸化水素と二酸化マンガンの実験をテーマに、与えられた情報から気体の重さや体積を求められる計算力をはかることをねらいとした。また問1、問2では物質の性質に関する知識を問う問題を出題し、基本事項をおさえられているかはかることをねらいとした。	全体的によくできていたと思われる。問1、問2の基本問題は確実に取っておきたいところである。問4の計算は頻出なのでぜひ解けるようになってほしい。問5は問3の答え、酸素とメタンの関係、酸素の重さと体積の関係の3つの情報を組み合わせて問題を解くため情報を整理する力が必要であった。
	問2	76%	91%		
	問3	71%	85%		
	問4	31%	48%		
	問5	47%	70%		
4	問1	91%	97%	定滑車と動滑車を題材にして加える力や仕事量(力の大きさ×物体が動いた距離)を問うなど、基本的なことから応用までの内容を出題した。問1、問2は基本的な問いで点数を取りたいところである。問3は問2の応用で、問2の考え方を理解していないと答えが出ない。問4はつりあいの関係を見抜かなくてはならない。問5、問6は仕事の原理を問うた。	問1、問2は想定通り、よくできていた。問3については出題の意図がわからない受験生が見受けられた。問4は難易度が高く、力のつりあいから答えを導いた受験生は立派である。問5、問6は6割を超える得点率となっていて、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。
	問2	76%	90%		
	問3	50%	64%		
	問4	30%	36%		
	問5	65%	69%		
	問6	62%	69%		

● 2024年度 中学入試 グローバル方式 英語 設問別得点率 ※グローバル方式の算数の分析は第3回入試と合わせて掲載(P.28)

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	94%	100%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、しっかりとした不規則変化動詞の知識も当然必要とされる。	基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化については、普段から特に意識して学習する必要があるだろう。
	問2	94%	100%		
	問3	87%	100%		
	問4	90%	100%		
	問5	42%	67%		
	問6	97%	100%		
	問7	94%	100%		
	問8	87%	100%		
	問9	77%	83%		
	問10	63%	75%		
2	問1	94%	100%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも並べ換えた上で、2番目と4番目の語句を解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準2級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。問10の仮定法を含んだ問題であっても合格者は運用できていることがうかがえた。合格者の平均正答率は95%となっており、今後の確約が大いに期待される。
	問2	90%	100%		
	問3	61%	92%		
	問4	32%	58%		
	問5	94%	100%		
	問6	84%	100%		
	問7	84%	100%		
	問8	87%	100%		
	問9	87%	100%		
	問10	74%	100%		
3	問1	97%	100%	メッセージ形式の長文問題である。それぞれ内容を問う問題である。筆者が発信する情報を時系列順に正確に思考できるかなどを問うた。設問に対しては、時間の推移と出来事を掌握する必要がある。回答は番号で答えさせる形式で上記内容が分かっているかどうか回答へのカギとなっている。該当しないものに関しては平易な内容でまとめた。	正答率は例年と比較しかなり高い結果となった。選択肢の内容も相当ストレートなもので、基礎的な学習が出来ている受験生は迷わず解答できたものと思われる。英検準二級レベルとほぼ同等の語彙レベル及び長さの出題となった。
	問2	100%	100%		
	問3	100%	100%		
4	問1 ①	71%	83%	本問はやや長めの長文を正確に読み取れるかを問う総合問題。正確に読むためには、基本的な文法力は身につけている前提で、論の展開から、「A=BだからA'=B'である」というように論理的に読める力を測ることに力点を置いた問題とした。	問1⑦からも分かるとおり、最終段落は全体が夜についての話で、「アメリカでは皆クルマで移動する」だから「終電を気にする必要がない」というように論理的に読んで欲しい。また使用した単語は英検準2級レベルなので、市販の単語集なども使って単語力を強化して欲しい。
	②	52%	58%		
	③	94%	100%		
	④	68%	92%		
	⑥	87%	100%		
	⑦	52%	25%		
	問2 ⑤	19%	42%		
5	問1	58%	85%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳は、長文全体の流れの中での一文を的確に理解しているか、また文法を理解して和訳しているか、にポイントを置いた。内容理解問題では、段落毎にきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	英検準2級レベルの問題である。内容的に小学生にも馴染みのあるものであったと思われ、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解ができているかを中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋した様子のも、修飾関係を間違えているものも散見されたが、英文の主張や話の流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問2 (1)	81%	100%		
	(2)	84%	100%		
	(3)	90%	100%		
	(4)	94%	100%		

# Access



※○の中の青色白抜き斜字は二子玉川駅経由(バスを含む)所要時間



【バス案内】  
 ● 二子玉川駅より「玉07」で約20分  
 東急バス・小田急バス  
 「東京都市大付属中高前」停留所で下車



東京都市大学 附属中学校・高等学校  
TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

〒157-8560 東京都世田谷区成城1-13-1  
TEL 03-3415-0104 FAX 03-3749-0265

<https://www.tcu-jsh.ed.jp/>  
メールでのお問い合わせは info@tcu-jsh.ed.jp

第1版 2024年5月12日発行  
表紙イラスト 高2 鈴木 瑠斗